

Syllabus 2025

授業計画

2025 度 シラバス

理学療法学科
Physical Therapist

学校法人 湘南ふれあい学園
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校



科目名	文書読解法		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員(◎印は科目責任者)	◎ 近藤 正臣					
授業概要	①説明文や論説(評論)文等を用いて、書かれている内容を正確に読み取る練習を「演習(自習)→解説(答え合わせ)」の形式で展開する。 ②文検3級の受験テキストの何篇かを用いて、語彙力や表現力も含めた総合的な文章力の向上を図る練習を行う。					
到達目標	①説明文や論説(評論)文等の内容を正しく理解できる文章読解力を身につける。 ②語彙力や表現力も含めた文章全般の力を向上させ、文検3級に合格できる程度の文章力を身につける。					
教科書	テキストA. 新聞で力をつける「コラムと論説」演習ノート第5集 【京都書房】 テキストB. 論読 評論文 問題ノート付 【浜島書店】、 作成プリント					
参考書	『文章検 3級対応 基礎から学べる 文章カステップ』【漢検】、 他					
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他		計	
	80 点	10 点	10 点		100 点	
予習・復習のポイント	予習: 事前配布・講義中配布されたプリントの対応、授業計画の各回内容の準備・対応。 復習: 講義内容と教科書・関係プリントとの関連性を重視した確認。					
授業計画						講師名
第1回	① オリエンテーション⇒「開講説明、実施方法・評価方法」等に関して。 ◇ ② 「已・巳年に関して」の説明・問題及び「日本語チェック」の問題を解く。 ◇ ③ 「3行3段構成書き」による「自己紹介文」を書く。 ◇ ④ 参考資料「目的別 文の種類」・「読解に関して」の参照・確認する。 ◇					近藤
第2回	① 「文章読解力・文章表現力」に対する自分の思いをそれぞれ100字程度にまとめる ◇ ⇒グループ討議後提出 ② テキストA P. 1~5の「入門編」を参照・確認する。 ③ テキストA P. 6~15の「コラム編」の演習と解説					近藤
第3回	テキストA P. 16~27の「論説編」の演習と解説 テキストA P. 28~31の「入試問題編」の演習と解説					近藤
第4回	テキストB 情報の1・2・3の演習と解説					近藤
第5回	テキストB 芸術の4・5・6の演習と解説					近藤
第6回	テキストB 科学の7・8・9の演習と解説					近藤
第7回	テキストB 科学の10、言語の11・12の演習と解説					近藤
第8回	テキストB 言語の13・14、文化の15の演習と解説					近藤
第9回	テキストB 文化の16・17・18の演習と解説					近藤
第10回	小テストの実施(読解問題)、 テキストB 社会の19の演習と解説					近藤
第11回	テキストB 社会の20・21・22の演習と解説					近藤
第12回	テキストB 身体の23・24・25の演習と解説					近藤
第13回	テキストB 思想の26・27・28の演習と解説					近藤
第14回	文検3級「まとめ問題の演習と解説					近藤
第15回	全体のまとめに関して ア. 試験について イ. 「活躍・発展を祈念して」等					近藤
備考	○「成績評価方法」欄中の「その他」は、平常点(授業中の態度・提出物状況等)を指します。 ○「授業計画」欄中の◇は、プリントの使用を表します。 ○「一般教養」のための基礎知識的な資料・問題等のプリントを適宜配布します。 ○授業の進捗状況によって、授業計画(内容)を変更する場合があります。					

科目名	物理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 古谷 実					
授業概要	専門基礎科目の運動学をはじめ、専門科目を理解するために必要な物理学と数学について学んでいく。授業はプリントを配布のうえ、スライドでの説明と演習を中心におこなう。配布する別冊問題集を利用して演習、復習が可能。					
到達目標	身体運動のメカニズムの説明と理解など、理学療法を科学的に捉えるために必須となるバイオメカニクスの考え方を身につける。また、専門科目「物理療法学」を学ぶ上で必要となる「熱」、「波」、「電流」の基礎的内容を理解する。					
教科書	書籍名【出版社】使用しない					
参考書	書籍名【出版社】					
成績評価方法					計	
	中間 50 点	期末 50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	配布する別冊問題集を利用して復習をしっかりと行うこと。					
授業計画						講師名
第 1 回	基礎数学 物理学に必要な数学（三角比、ベクトル）					古谷
第 2 回	質点の力学 運動の記載（座標系・位置・速度と速さ・加速度）					古谷
第 3 回	質点の力学 力の表し方、いろいろな力（重力・垂直抗力・摩擦力・糸やバネの張力）					古谷
第 4 回	問題演習（第 1 回講義～第 3 回講義の範囲）					古谷
第 5 回	質点の力学 質点に働く力の見つけ方、作用・反作用の法則、力のつり合い					古谷
第 6 回	質点の力学 力と運動（運動方程式の適用）					古谷
第 7 回	問題演習（第 5 回講義、第 6 回講義の範囲）					古谷
第 8 回	前半のまとめ（第 1 回講義～第 3 回講義、第 5 回講義、第 6 回講義の総復習）					古谷
第 9 回	剛体の力学 剛体とは（質点との違い）、てこと力のモーメント、剛体に働く力のモーメント					古谷
第 10 回	剛体の力学 剛体の回転運動と力のモーメント、剛体のつり合い条件（1）					古谷
第 11 回	剛体の力学 剛体の回転運動と力のモーメント、剛体のつり合い条件（2）					古谷
第 12 回	問題演習（第 9 回講義～第 11 回講義の範囲）					古谷

第 13 回	熱と温度、熱の伝わり方、比熱と熱容量、波の基礎（縦波、横波、音波）	古谷
第 14 回	電流の基礎	古谷
第 15 回	問題演習（第 13 回講義、第 14 回講義の範囲）	古谷
備考	① 授業毎にプリントを配布します。 ② 復習は別途配布の問題集を利用する。	

科目名	生命科学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 櫻井 亮太					
授業概要	医学・医療を学ぶために必要な生物・化学・物理分野の知識を学ぶ					
到達目標	生命現象を理解するために必要な知識を習得する					
教科書	解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理【羊土社】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	点	
授業計画						講師名
第 1 回	原子と分子					櫻井
第 2 回	物質の濃度、酸と塩基					櫻井
第 3 回	糖質、脂質、タンパク質					櫻井
第 4 回	核酸と ATP、体液					櫻井
第 5 回	圧力					櫻井
第 6 回	細胞 代謝					櫻井
第 7 回	電気					櫻井
第 8 回	遺伝情報					櫻井
第 9 回	細胞分裂					櫻井
第 10 回	組織					櫻井
第 11 回	器官					櫻井
第 12 回	ホメオスタシス					櫻井
第 13 回	免疫					櫻井
第 14 回	成長と老化					櫻井
第 15 回	まとめ					櫻井
備考	これから行われる多くの授業に向けてノートテイキングの練習のつもりで聴講内容を書き留めるように心がけること。					

科目名	情報科学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	科学的思考の基盤		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 橋本 規子					
授業概要	専門基礎科目及び専門科目を学んでいく上で必要な情報的な能力を身につけるため授業を行う。いろいろな情報の中から、目的に合った適切な情報の有効な活用方法を演習する。					
到達目標	専門基礎科目及び専門科目など様々な教科学習の基礎になおる情報リテラシーを習得すること。					
教科書	30 時間アカデミック Office2021 【実教出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：シラバスに記載されている教科書の内容を確認 復習：課題作成時に確認					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション、コンピューターの基礎、情報モラル&セキュリティ（1） 1 章 Windows					橋本
第 2 回	情報モラル&セキュリティ（2） 2 章 Word（1） 文書の作成、印刷					橋本
第 3 回	2 章 Word（2） 表の作成					橋本
第 4 回	2 章 Word（3） 文書の編集					橋本
第 5 回	2 章 Word（4） 表現力をアップする					橋本
第 6 回	2 章 Word（5） 長文作成をサポートする					橋本
第 7 回	3 章 Excel（1） データの入力・編集、表の作成					橋本
第 8 回	3 章 Excel（2） 表の印刷、いろいろな数式（1）					橋本
第 9 回	3 章 Excel（3） いろいろな数式（2）					橋本
第 10 回	3 章 Excel（4） グラフと図形、データベースの利用					橋本
第 11 回	3 章 Excel（5） ピボットテーブル、操作の自動化					橋本
第 12 回	2 章, 3 章 まとめ					橋本
第 13 回	4 章 PowerPoint（1） プレゼンテーションの作成（1）					橋本
第 14 回	4 章 PowerPoint（2） プレゼンテーションの作成（2）					橋本
第 15 回	まとめ					橋本
備考						

科目名	医学概論		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 佐藤 勉					
授業概要	衛生学・公衆衛生学を中心に医学に関わる諸問題について講義する 医療従事者としての必要な基礎的、臨床的な医学知識を学習する					
到達目標	現代における健康と予防医学の意義について考察し、医学を広く理解する 健康影響や疾病の起因について環境因子の側面から考察できる					
教科書						
参考書	必要があれば講義中に紹介する					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	医学、医療の諸問題について常に関心を持ち、社会との関連を理解する 講義までに教科書などに目を通し、分からないことがあれば必ず質問すること					
授業計画						講師名
第 1 回	医学概論（ガイダンス） 【医学における衛生学・公衆衛生学の役割について理解する】					佐藤
第 2 回	医療と医の倫理 【医の倫理に関わる関係法規と医療情報管理を学ぶ】					佐藤
第 3 回	保健統計 【健康に関わる評価方法を各種保健統計から理解する】					佐藤
第 4 回	疫学 【統計をもとに疫学的手法を理解し疾病予防と健康増進を考察する】					佐藤
第 5 回	保健行政 【母子保健、老人介護保健、精神保健を学ぶ】					佐藤
第 6 回	環境保健 【環境因子と疾患の関係について感染症や公害病などから理解する】					佐藤
第 7 回	生活習慣病 【生活環境が起因するがんやメタボリックシンドロームを理解する】					佐藤
第 8 回	生活習慣病の予防 【メタボリックシンドロームと肝疾患を理解し、その予防法について理解する】					佐藤
第 9 回	遺伝子異常と疾患 【疾病の発症を分子生物学的視点から考える】					佐藤
第 10 回	予防医学 【予防医学の特徴を知り、分子レベルから疾患の予防法を考察する】					佐藤
第 11 回	がんとその予防 【発がんのメカニズムと予防法を理解する】					佐藤
第 12 回	感染症 【感染症の発症要因と予防法を学ぶ】					佐藤
第 13 回	先端医療技術 【iPS 細胞に関わる遺伝子組み換え技術や生殖、再生医療など最新医学について学ぶ】					佐藤
第 14 回	根拠に基づく医学（EBM） 【医学情報を正しく理解し、医療や予防医学における根拠について考察する】					佐藤
第 15 回	まとめ					佐藤
備考	評価方法や学習方法については初回の講義に補足説明をする。 評価する際、講義態度も重要視する。					

科目名	医学英語		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 長坂 明					
授業概要	医療現場で使用される英語基本用語や英語表現を学ぶ。 文法事項を復習し、医療英語ニュース、文献を学んでいく。					
到達目標	英語をコミュニケーション手段として活用できるようにし、正しい情報取得に努める。					
教科書	福祉・介護系学生のための総合英語 - A Helping Hand【南雲堂】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他		計	
	70 点	15 点	15 点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書を中心に配布プリントで補いながら医学英語をマスターする。					
授業計画						講師名
第 1 回	授業概論・医学英語の基本説明					長坂
第 2 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習①					長坂
第 3 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習②					長坂
第 4 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習③					長坂
第 5 回	医学英語読解の基礎学習 身体部分の英語学習④ (小テスト)					長坂
第 6 回	医学英語読解の基礎学習 運動動作の英語表現①					長坂
第 7 回	医学英語読解の基礎学習 運動動作の英語表現②					長坂
第 8 回	医学英文ニュース読解 運動動作の英語表現③					長坂
第 9 回	医学英文ニュース読解 運動動作の英語表現④					長坂
第 10 回	医学英文ニュース読解 運動動作の英語表現⑤ (小テスト)					長坂
第 11 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－①					長坂
第 12 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－②					長坂
第 13 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－③					長坂
第 14 回	医学英文・文献読解 運動動作の英語表現Ⅱ－④					長坂
第 15 回	総復習					長坂
備考	成績評価の <u>その他</u> については「提出物」の提出状況・授業態度をみて評価する。					

科目名	健康科学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	演習	単位	2 単位
	人間と生活		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任)	◎ 平野智子・斉藤尚美					
授業概要	人生100年時代を健康的に生活でき、目標を定めて自己実現を目指すために必要な知識・技術を養う。					
到達目標	学生自身の健康的なライフスタイルを確立することを目標とする。					
教科書	プリントを配付					
参考書	授業内にて指示					
成績評価方法	プレゼンテーション	その他			計	
	40 点	60 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	課題に対する情報収集力を高めると共にその情報の編集力を養う					
授業計画						講師名
第1回	授業オリエンテーション（評価・プレゼンテーション・実技について） 発想の転換「気づき」から「築き」へ					平野・斉藤
第2回	体力と運動能力構成要素 体力測定 課題 自身のライフスタイルを確認する					平野・斉藤
第3回	ストレッチング運動の意義や方法 ～ 立位・椅子でのストレッチング					平野・斉藤
第4回	肩こり・腰痛予防のためのストレッチと効果 ～ タオル体操					平野・斉藤
第5回	プレゼンテーションについて（グループ・テーマ等決定） マットでのストレッチング（ストレッチポール使用）					平野・斉藤
第6回	筋力トレーニングの意義や方法 ～ 立位、椅子での筋力トレーニング					平野・斉藤
第7回	体幹トレーニングの実施と効果 ～ 立位、椅子での体幹トレーニング					平野・斉藤
第8回	プレゼンテーション（資料の収集、構成） マットでの筋力トレーニング（ボール使用）					平野・斉藤
第9回	全身持久カトレーニングの意義や方法 ～ 簡単エアロビクス					平野・斉藤
第10回	プレゼンテーション（流れの確認） 資料の提出 アジリティ・脳活性トレーニング					平野・斉藤
第11回	プレゼンテーション					平野・斉藤
第12回	ストレスを考える ～呼吸法・ヨガのポーズでリラクゼーション～ 課題 自身のストレスを分析する					平野・斉藤
第13回	2人組体操 ～他者とのコミュニケーションを図る～					平野・斉藤
第14回	運動継続のヒント ～ アイスブレイク・レクリエーションゲーム 指導のためのテクニック					平野・斉藤
第15回	まとめ					平野・斉藤
備考						

科目名	コミュニケーション論		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	社会の理解		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 長澤 里絵					
授業概要	ケアや社会福祉援助ではつねに人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。					
到達目標	1. 医療現場におけるコミュニケーション論の基本的知識を理解する。 2. ロールプレイングを通し、対人関係能力を維持・高めコミュニケーション行動を展開できる基礎的な能力を習得する。					
教科書	第3版 PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド【医学書院】					
参考書	適宜紹介する。					
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	70 点	30 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	事前学習：テキストの該当箇所を読み予習を行うこと。 事後学習：授業で扱う内容について復習をしておくこと。					
授業計画						講師名
第1回	イントロダクション・コミュニケーションとは - コミュニケーションの目的と分類・医療現場におけるコミュニケーションを学ぶ重要性の理解					長澤
第2回	言語的（バーバル）コミュニケーション - 語彙理解と文章理解					長澤
第3回	非言語（ノンバーバル）コミュニケーション（1） - NVCの分類・アイコンタクト					長澤
第4回	非言語（ノンバーバル）コミュニケーション（2） - 表情・近接学					長澤
第5回	コミュニケーションの基本（1） - 「聴く」と「聞く」					長澤
第6回	コミュニケーションの基本（2） - コミュニケーションにおける「話す」とは					長澤
第7回	コミュニケーションの基本（3） - 相手のメッセージを受け止める					長澤
第8回	社会人のマナーとしてのコミュニケーション - 敬語・あいさつ・電話応対					長澤
第9回	臨床で役立つコミュニケーションスキル（1） - 医療面接での対話					長澤
第10回	臨床で役立つコミュニケーションスキル（2） - 話を引き出す・切り上げる・答えにくい質問に応じる方法					長澤
第11回	コミュニケーション実習（1） - ロールプレイング（1）					長澤
第12回	コミュニケーション実習（2） - ロールプレイング（2）					長澤
第13回	アサーティブコミュニケーションとは					長澤
第14回	コミュニケーション実習（3） - ロールプレイング（3）アサーショントレーニング					長澤
第15回	まとめ					長澤
備考						

科目名	解剖学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 夏山 裕太郎					
授業概要	ヒトの体内で様々な機能を担う循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、血液系および生殖器系（含む発生）について、その正常構造を学ぶ。					
到達目標	内臓諸器官の構造や人体の発生を理解し、説明できる事を到達目標とする					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（第 6 版）【医学書院】 プロメテウス解剖学コアアトラス第 4 版【医学書院】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習の際には、授業計画を参考にして、教科書の当該部分を読んでおくこと。復習が重要である。授業でのノートや教科書に目を通し、その日に学んだことの理解度を確認すること。					
授業計画						講師名
第 1 回	呼吸器系 気道の構造と機能について解説する。					夏山
第 2 回	循環器系 I 心臓、動脈、毛細血管網および静脈について解説する。					夏山
第 3 回	循環器系 II 心臓、動脈、毛細血管網、そして静脈を経て心臓に戻る血管系の走行と支配経路を解説する。					夏山
第 4 回	循環器系 III リンパ系組織の構造と役割について解説する。					夏山
第 5 回	血液系 血液の成分、造血および止血・凝固について解説する。					夏山
第 6 回	消化器系 I 上部消化器の構造と食物の消化・吸収機能について解説する。					夏山
第 7 回	消化器系 II 下部消化器と消化腺の構造と食物の消化・吸収について解説する。					夏山
第 8 回	消化器系 III 下部消化器と消化腺の構造と食物の排泄機能について解説する。					夏山
第 9 回	泌尿器系 泌尿器の構造と各部位の尿産生に関わる機能について解説する。					夏山
第 10 回	生殖器系 男性・女性生殖器の構造と生殖機能について解説する。					夏山
第 11 回	内分泌系 I 内分泌器（視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体）の構造と位置を示し、分泌されるホルモンの種類を解説する。					夏山
第 12 回	内分泌系 II 内分泌器（胸腺、膵臓、副腎、性腺）の構造と位置を示し、分泌されるホルモンの種類を解説する。					夏山
第 13 回	人体発生 I 受精、卵割、着床時に起こる様々な現象について解説する。					夏山
第 14 回	人体発生 II 胎生期の組織発生について、構造を中心に解説する。					夏山
第 15 回	まとめ					夏山
備考						

科目名	解剖学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	4 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松山 永久					
授業概要	パワーポイントや動画を用いて、中枢神経系および末梢神経系の構造と機能を理解し、模型等で三次元的な理解を行う。					
到達目標	神経系の基本的な構造・機能の理解。中枢神経系の脳・脊髄の構造および末梢神経系の脳神経と脊髄神経の走行と支配筋および機能を理解					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 【医学書院】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部・神経解剖 第3版 【医学書院】					
成績評価方法	中間試験	定期試験				計
	50 点	50 点				100 点
予習・復習のポイント	予習：各講義予定の項目内容を教科書や参考書等で一読する 復習：配布資料や教科書で講義内容を確認しノートにまとめる					
授業計画						講師名
第1回	神経系総論Ⅰ 神経の区分・構成について解説をする。					松山
第2回	神経系総論Ⅱ 脳脊髄膜と脳室系の解説をする					松山
第3回	神経系総論Ⅲ 神経の発生について解説する。					松山
第4回	中枢神経系Ⅰ（脊髄） 脊髄の外形構造や機能について解説をする。					松山
第5回	中枢神経系Ⅱ（脊髄） 脊髄の各部位の断面構造や機能についての解説をする。					松山
第6回	中枢神経系Ⅲ（脳幹） 脳幹の位置と機能について解説をする。					松山
第7回	中枢神経系Ⅳ（脳幹） 延髄の位置と機能について解説をする。					松山
第8回	中枢神経系Ⅴ（脳幹） 橋の位置と機能について解説をする					松山
第9回	中枢神経系Ⅵ（脳幹） 中脳の位置と機能について解説をする。					松山
第10回	中枢神経系Ⅶ（間脳） 間脳（視床・視床下部）の位置と機能について解説をする。					松山
第11回	中枢神経系Ⅷ（小脳） 小脳の構造と機能について解説をする。					松山
第12回	中枢神経系Ⅷ（大脳半球） 大脳半球の表面の区分と大脳皮質の機能局在について解説をする。					松山
第13回	中枢神経系Ⅸ（大脳半球） 大脳基底核についての解説をする。					松山
第14回	中枢神経系Ⅹ（大脳半球） 神経路の解説をする。					松山
第15回	中間まとめ					松山

授業計画		講師名
第 16 回	痛覚の伝導路 上行性伝導路の視覚路についての解説をする。	松山
第 17 回	視覚・聴覚の伝導路 上行性伝導路の聴覚路についての解説をする。	松山
第 18 回	その他の伝導路 味覚、嗅覚の伝導路について解説をする。	松山
第 19 回	下行性伝導路 錐体路、錐体外路について解説をする。	松山
第 20 回	末梢神経系 脳神経 I 脳神経 12 対について部位と機能について解説をする。	松山
第 21 回	末梢神経系 脳神経 II 脳神経 12 対について部位と機能について解説をする。	松山
第 22 回	末梢神経系 脊髄神経 I 脊髄神経の概要について解説する。	松山
第 23 回	末梢神経系 脊髄神経 II 頸神経の枝の走行と支配筋と機能について解説をする。	松山
第 24 回	末梢神経系 脊髄神経 III 腕神経叢の枝の走行と支配筋と機能について解説をする。	松山
第 25 回	末梢神経系 脊髄神経 IV 腕神経叢の枝の走行と支配筋と機能および麻痺について解説をする。	松山
第 26 回	末梢神経系 脊髄神経 V 胸髄および胸神経の走行と支配筋との関連および胸郭の構造を解説する。	松山
第 27 回	末梢神経系 脊髄神経 VI 腰骨神経叢の枝の走行と支配筋との関連および機能について解説をする。	松山
第 28 回	末梢神経系 脊髄神経 VII 仙骨神経叢の枝の走行と支配筋との関連および機能について解説をする。	松山
第 29 回	自律神経系 交感神経・副交感神経の走行と機能について解説をする。	松山
第 30 回	総合まとめ	松山
備考		

科目名	解剖学Ⅲ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	6 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	45 コマ	時間数	90 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 夏山 裕太郎					
授業概要	医学の基本である人体の構造について基本的事項を中心に学ぶ。 特に、当科目では、全身の骨・関節・筋における基本的構成と特徴について知識の修得を目指す。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体における運動器系の基本的構造について説明できる。 ・人体各部の骨の名称および関節の構造について説明できる。 ・人体各部の筋の名称およびその付随項目について説明できる。 					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 【医学書院】 プロメテウス解剖学コアアトラス第4版 【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	中間試験	その他		計	
	70 点	30 点	0 点		100 点	
予習・復習のポイント	予習：教科書を一読し、講義内容の概略を把握することが望ましい。 復習：講義の内容と教科書の内容を照らし合わせ、教科書を熟読することが望ましい。					
授業計画						講師名
第1回 第2回	解剖学総論1：人体を構成する細胞と組織について学習する。 解剖学総論2：人体の組織、器官、発生について学習する。					夏山
第3回 第4回	骨学総論1：骨学の基礎について概説する。 骨学総論2：骨学の基礎について概説する。					夏山
第5回 第6回	骨学各論1：頭蓋の骨について学習する。 骨学各論2：脊柱と胸郭について学習する。					夏山
第7回 第8回	骨学各論3：上肢帯について学習する。 骨学各論4：自由上肢骨について学習する。					夏山
第9回 第10回	骨学各論5：下肢帯について学習する。 骨学各論6：自由下肢骨について学習する。					夏山
第11回 第12回	関節靭帯総論1：関節と靭帯について概説する。 関節靭帯総論2：関節と靭帯について概説する。					夏山
第13回 第14回	関節靭帯各論1：頭蓋と脊柱の連結について学習する。 関節靭帯各論2：脊椎と胸郭の連結について学習する。					夏山
第15回 第16回	関節靭帯各論3：上肢帯の連結について学習する。 関節靭帯各論4：上肢帯の連結について学習する。					夏山
第17回 第18回	関節靭帯各論5：自由上肢骨の連結について学習する。 関節靭帯各論6：自由上肢骨の連結について学習する。					夏山
第19回 第20回	関節靭帯各論7：下肢帯の連結について学習する。 関節靭帯各論8：下肢帯の連結について学習する。					夏山
第21回 第22回	関節靭帯各論9：自由下肢骨の連結について学習する。 関節靭帯各論10：自由下肢骨の連結について学習する。					夏山
第23回	前期のまとめ					夏山

授業計画		講師名
第 24 回 第 25 回	筋学総論 1 : 筋学の基礎について概論を説明する。 筋学総論 2 : 筋学の基礎について概論を説明する。	夏山
第 26 回 第 27 回	筋学各論 1 : 上肢帯の筋について学習する。 筋学各論 2 : 上肢帯の筋について学習する。	夏山
第 28 回 第 29 回	筋学各論 3 : 上腕の筋について学習する。 筋学各論 4 : 上腕の筋について学習する。	夏山
第 30 回 第 31 回	筋学各論 5 : 前腕の筋について学習する。 筋学各論 6 : 前腕の筋について学習する。	夏山
第 32 回 第 33 回	筋学各論 7 : 手の筋について学習する。 筋学各論 8 : 下肢帯の筋について学習する。	夏山
第 34 回 第 35 回	筋学各論 9 : 下肢帯の筋について学習する。 筋学各論 10 : 大腿の筋について学習する。	夏山
第 36 回 第 37 回	筋学各論 11 : 大腿の筋について学習する。 筋学各論 12 : 下腿の筋について学習する。	夏山
第 38 回 第 39 回	筋学各論 13 : 下腿の筋について学習する。 筋学各論 14 : 足の筋について学習する。	夏山
第 40 回 第 41 回	筋学各論 15 : 頭部の筋について学習する。 筋学各論 16 : 頸部の筋について学習する。	夏山
第 42 回 第 43 回	筋学各論 17 : 胸部の筋について学習する。 筋学各論 18 : 腹部の筋について学習する。	夏山
第 44 回 第 45 回	筋学各論 19 : 背部の筋について学習する。 まとめ	夏山
備考		

科目名	解剖学実習		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	実習	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 櫻井 亮太 山崎 尚樹					
授業概要	解剖学および解剖学に基づいた骨の触診を習得する					
到達目標	骨および筋の名称、役割を理解できる 関節の構造と動きを理解できる 表層から正確に骨のランドマークが触診できる					
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 【メジカルビュー】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢体幹 【メジカルビュー】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 【医学書院】 ネッター解剖学アトラス 【南江堂】					
成績評価方法	実技試験		定期試験		計	
	30 点		70 点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書に載っている機能解剖学的知識の習得および触診技術の向上に努めること					
授業計画						講師名
第 1 回	標本実習 肩甲骨					櫻井
第 2 回	標本実習 上腕骨					山崎
第 3 回	標本実習 橈骨・尺骨					櫻井
第 4 回	標本実習 手根骨・指骨					山崎
第 5 回	標本実習 骨盤					
第 6 回	標本実習 大腿骨					
第 7 回	標本実習 膝関節					櫻井
第 8 回	標本実習 足関節					山崎
第 9 回						
第 10 回	標本実習 脊柱					櫻井
第 11 回	標本実習 胸郭					山崎
第 12 回	触診 肩甲棘・肩峰・棘三角・内側縁・上角・下角・外側縁・烏口突起					櫻井
第 13 回	触診 鎖骨体・肩鎖関節・胸鎖関節・大結節・小結節・結節間溝 外側上顆・内側上顆・肘頭窩・上腕骨滑車・上腕骨小頭					山崎
第 14 回	触診 橈骨頭・腕橈関節・近位橈尺関節・橈骨茎状突起・リスタ一結節・肘頭・腕尺関節・ 尺骨頭・遠位橈尺関節・尺骨茎状突起					櫻井

第 15 回	触診 豆状骨・三角骨・舟状骨・月状骨・大菱形骨・有頭骨・有鉤骨	山崎
第 16 回	まとめ 上肢	櫻井 山崎
第 17 回	まとめ 上肢	
第 18 回	まとめ 上肢	
第 19 回	まとめ 上肢	
第 20 回	触診 腸骨稜・上前腸骨棘・上後腸骨棘・坐骨結節・大転子・大腿骨頭	山崎
第 21 回	触診 膝蓋骨・大腿骨膝蓋面・大腿骨脛骨内外側顆・大腿骨内外側上顆・内転筋結節・脛骨粗面・ガーディ結節・腓骨頭	櫻井
第 22 回	触診 内外果・距腿関節・距骨・踵骨隆起・載距突起・距骨下関節・舟状骨粗面・楔舟関節・母指リスフラン関節	山崎
第 23 回	触診 外後頭隆起・上項線・下項線・環椎横突起・頸椎棘突起・腰椎棘突起（ヤコビー線）・胸椎棘突起	櫻井
第 24 回	触診 胸骨柄・頸切痕・胸骨角・剣状突起・第 1～7 胸肋関節	山崎
第 25 回	まとめ 下肢・体幹	櫻井 山崎
第 26 回	まとめ 下肢・体幹	
第 27 回	まとめ 下肢・体幹	
第 28 回	まとめ 下肢・体幹	
第 29 回	まとめ 上肢・下肢・体幹	櫻井 山崎
第 30 回	まとめ 上肢・下肢・体幹	
備考	<p>授業中は私語を慎み、真面目に取り組むこと 授業中の睡眠では十分に疲れが取れないので、自宅で寝るように 授業時間内のみでの触診技術の習得は困難なので、授業中は集中し、授業時間外も活用すること。</p>	

科目名	生理学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 富田 エミ					
授業概要	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内（正常）に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。講義の内容は、生体の恒常性維持機構、細胞、神経、筋、骨、感覚、血液、心臓と循環等である。					
到達目標	ヒトの生命維持の基礎である生理学について理解し、専門職者として必要な時に知識を利用することができるようになる。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他	計		
	68 点	12 点	20 点	100 点		
予習・復習のポイント	予習では予めテキストに目を通し不明な点を明確にしておき、復習では講義後に間を空けずに確認作業と行う習慣をつけること。試験前にまとめ行うことはおすすめしません。					
授業計画						講師名
第1回	ガイダンス、評価について 生理学の概要、生命現象とホメオスタシス					富田
第2回	【生体の恒常性維持機構】 生命現象とホメオスタシス					富田
第3回	【細胞】 細胞の構造と機能、静止電位と活動電位					富田
第4回	【組織】 組織の分類、					富田
第5回	【外皮】 皮膚、皮膚付属器の構造、機能					富田
第6回	【神経①】 神経細胞の構造、興奮の伝導					富田
第7回	【神経②】 末梢神経、自律神経、シナプス					富田
第8回	【神経③】 中枢神経系					富田
第9回	【筋】 筋の分類、骨格筋、心筋、平滑筋、収縮メカニズム					富田
第10回	【骨の連結】 関節、軟骨、					富田
第11回	【骨】 骨代謝					富田
第12回	【感覚①】 体性感覚、皮膚感覚、内臓感覚					富田
第13回	【感覚②】 特殊感覚、視覚、聴覚					富田
第14回	【感覚③】 嗅覚、平衡覚、味覚					富田
第15回	まとめ 全体のまとめ					富田
備考	成績評価のその他＝出席点					

科目名	生理学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 富田 エミ					
授業概要	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内（正常）に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。講義の内容は、内分泌系、心臓と循環、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器等である。					
到達目標	ヒトの生命維持の基礎である生理学について理解し、専門職者として必要な時に知識を利用することができるようになる。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他		計	
	68 点	12 点	20 点		100 点	
予習・復習のポイント	予習では予めテキストに目を通し不明な点を明確にしておき、復習では講義後に間を空けずに確認作業と行う習慣をつけること。試験前にまとめ行うことはおすすめしません。					
授業計画						講師名
第1回	【内分泌系①】 ホルモン作用、甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎					富田
第2回	【内分泌系②】 精巣と卵巣、松果体、ストレス反応					富田
第3回	【心臓と循環①】 循環と心臓、心収縮、心電図、心周期					富田
第4回	【心臓と循環②】 血圧の調節、圧-容積関係、血管					富田
第5回	【心臓と循環③】 微小循環、静脈寒流、リンパ循環					富田
第6回	【リンパ系】 リンパ系、リンパ循環、免疫機能					富田
第7回	【呼吸器系】 呼吸器系の器官、換気、呼吸、ガスの運搬、交換					富田
第8回	【消化器系】 口から大腸、加齢と消化器系					富田
第9回	【栄養と代謝】 栄養素、代謝、熱					富田
第10回	【泌尿器系】 腎臓の構造、ネフロン、尿の輸送、貯蔵、排出					富田
第11回	【血液】 血液区分、血液凝固、抗体					富田
第12回	【体液、電解質と酸塩基平衡】 体液区分と体液バランス、電解質					富田
第13回	【生殖器系】 弾性生殖器、女性生殖器、女性周期、加齢と生殖器					富田
第14回	【発生と遺伝】 妊娠から分娩、遺伝					富田
第15回	まとめ 全体のまとめ					富田
備考	成績評価のその他＝出席点					

科目名	生理学実習		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	実習	単位	1 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 内山 秀一					
授業概要	生理学は、人の体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、様々な生理学的な実習を行い、生理学の基本事項について学ぶ。					
到達目標	人の体の正常機能について、実験実習の結果をもとに、生理学的な理論の裏付けを知るとともに、学生自らが種々の生理機能の独立性と関連性を考察できるようになること。					
教科書	プリントを配付					
参考書	なし					
成績評価方法	レポート	その他			計	
	60 点	40 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	各テーマの基礎的事項について、事前に整理しておくこと。 レポート作成あたっては、確かな情報を用いること。					
授業計画						講師名
第 1 回 第 2 回	生理学実習の授業の方針、内容、評価の方法についてのガイダンスを行う。血液成分の観察、止血時間、血液型の判定を行う。					内山
第 3 回 第 4 回	間接法による血圧測定を習得し、種々の刺激に伴う血圧の変動を測定することから、血圧変化の機序を学ぶ。					内山
第 5 回 第 6 回	心拍数の測定と心電図の解析：種々の刺激に伴う心拍数の変化を測定する。臨床的にも必要不可欠な心電図 12 誘導を記録し、その波形を測定、解析する。					内山
第 7 回 第 8 回	種々の刺激による呼吸数の変化と、スパイログラムによる呼吸機能の測定法と評価法を学ぶ。					内山
第 9 回 第 10 回	自転車エルゴメータを用いて最大酸素摂取量を推定する。酸素摂取量、心拍数、主観的な運動強度などの変化から、各指標間の関係についても考える。					内山
第 11 回 第 12 回	骨格筋の収縮様式（等尺性収縮・短縮性収縮）と発揮される力の違いと筋放電量との関係を考察する。また、疲労による筋電図の変化を考察する。					内山
第 13 回 第 14 回	動作時の筋活動を複数の筋から導出し、運動と筋の活動について観察する。電氣的刺激による誘発筋電図から、神経伝導速度を求める。					内山
第 15 回	まとめ					内山
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、実習内容に関する資料を配布する。 ・ レポートの提出は、原則として次回の授業開始時とする。 ・ 成績評価における「その他」とは、授業に取り組む積極的な態度（質問や発言など）とします。 					

科目名	運動学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	4 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 古谷 実 松井 剛					
授業概要	専門科目につながる身体運動の力学（バイオメカニクス）の基礎および、生体の構造と機能について学んでいく。					
到達目標	国家試験合格レベルの当該範囲の知識を習得できる。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 頭部・神経解剖【医学書院】 トートラ 人体解剖生理学【丸善】、他別紙参照 前期「物理学」で購入した参考書と問題集					
成績評価方法	定期試験	中間試験			計	
	75 点	25 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	教科書、配布資料を参考に。練習問題がある場合はそれを活用。					
授業計画						講師名
第1回	運動の記載に用いる数学（ベクトル：位置ベクトル、成分表示）					古谷
第2回	身体運動と力学、物体の運動（位置・速度・加速度）のベクトル表示					古谷
第3回	Newton の運動法則（第1、第2、第3法則）、「系」と「内力・外力」					古谷
第4回	歩行中の床反力の特徴					古谷
第5回	仕事・仕事率・力学的エネルギー・運動量					古谷
第6回	力学的エネルギー保存の法則・運動量保存の法則					古谷
第7回	剛体の重心、重心の求め方					古谷
第8回	体節の重心と身体重心					古谷
第9回	1回～8回のまとめ					古谷
第10回	剛体の慣性モーメント、角運動量保存の法則					古谷
第11回	てこの3種類（第1、第2、第3のてこ）とその例					古谷
第12回	人体の中でのことその例、身体運動における力のモーメント					古谷
第13回	てこと力学的有利性、関節モーメントについて					古谷
第14回	国家試験 計算問題の紹介					古谷
第15回	10～14回のまとめ					古谷
第16回	骨・関節・筋					松井
第17回	骨・関節・筋					松井
第18回	循環					松井
第19回	循環					松井
第20回	中枢神経（オンライン）					松井
第21回	中枢神経（オンライン）					松井
第22回	中枢神経（オンライン）					松井
第23回	中枢神経（オンライン）					松井
第24回	呼吸機能					松井
第25回	呼吸機能					松井
第26回	脳神経-反射（オンライン）					松井
第27回	腎機能					松井
第28回	腎機能					松井
第29回	消化器					松井
第30回	まとめ（16回～29回）					松井
備考						

科目名	運動学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛 ・ 佐々木 千裕					
授業概要	身体の主要関節の運動について理解する。 基本的な動作分析方法、運動処方原則、姿勢の理論を学ぶ					
到達目標	各関節の運動に関わる構造上の特徴、運動に関わる、靭帯、筋の作用の理解。 各関節の運動についての理解。 動作分析、姿勢分析に必要な基本的な知識を習得する					
教科書	筋骨格系キネシオロジー原著第3版【医歯薬出版株式会社】 基礎運動学 第7版【医歯薬出版株式会社】					
参考書	各種解剖書					
成績評価方法	定期試験	松井担当	佐々木担当	計		
	100 点	60 点	40 点	100 点		
予習・復習のポイント	関節運動の理解が必須。授業の内容の理解のために、予習と復習を十分に行うこと。 教科書の精読に加え、不足している解剖学的知識の復習を十分に行うこと。					
授業計画						講師名
第1回	1. 上肢帯の骨・関節の構造と運動学				4/8	松井
第2回	2. 肩関節の運動学と筋・靭帯の構造と機能				4/8	松井
第3回	3. 肘関節・前腕の骨・関節構造と運動学				4/15	松井
第4回	4. 手関節・手指の関節構造と筋機能				4/22	松井
第5回	5. 骨盤・股関節の骨構造と運動学的特徴				5/13	松井
第6回	6. 股関節周囲の筋・靭帯とその役割				5/20	松井
第7回	7. 膝関節の構造、運動学、靭帯の機能				5/27	松井
第8回	8. 足関節・足部の骨・関節構造と運動学				6/3	松井
第9回	9. 足部アーチと支持機能、筋・靭帯の構造と機能				6/4	松井
第10回	10. 脊柱・体幹の骨・関節構造と運動学Ⅰ（頸椎・胸椎）				6/4	松井
第11回	11. 脊柱・体幹の骨・関節構造と運動学Ⅱ（腰椎・仙骨・骨盤帯）				6/10	松井
第12回	12. 脊柱・体幹の支持筋・靭帯とその役割				6/17	松井
第13回	13. 顎関節の構造と運動学、咀嚼筋の役割				6/24	松井
第14回	14. 各関節における関節包・靭帯・関節円板の構造的特徴				6/25	松井
第15回	15. 二関節筋の構造と運動への影響				6/25	松井
第16回	16. 関節運動の評価に必要な骨指標とランドマークの理解				7/1	松井
第17回	17. 筋の走行・作用・支配神経の理解と臨床的意義				7/8	松井
第18回	18. 総復習：運動器の構造と運動学の統合的理解				7/9	松井
第19回	姿勢の定義				4/9	佐々木
第20回	姿勢と重心				4/9	佐々木
第21回	立位姿勢の安定性①				4/16	佐々木
第22回	バランス制御				4/16	佐々木
第23回	立位姿勢の安定性②				4/23	佐々木
第24回	立位姿勢の保持				4/23	佐々木
第25回	中間試験（佐々木分）				5/21	佐々木
第26回	運動と動作の分析				5/21	佐々木
第27回	身体運動学的分析①				5/28	佐々木
第28回	身体運動学的分析②				5/28	佐々木
第29回	まとめ					
第30回	まとめ					
備考						

科目名	運動学Ⅲ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 佐々木 千裕					
授業概要	歩行・走行・運動学習に関する理解					
到達目標	正常歩行と異常歩行のメカニズムを理解する。走行の運動学的特徴を理解する。運動学習の諸理論を理解する。					
教科書	ペリー歩行分析 正常歩行と異常歩行 原著第二版 基礎運動学補訂 6 版					
参考書	観察による歩行分析 筋骨格系のキネシオロジー 第二版					
成績評価方法	小テスト	中間試験	定期試験	計		
	10 点	20 点	70 点	100 点		
予習・復習のポイント	授業の内容の理解のために、予習と復習を十分に行うこと。 教科書の精読に加え、不足している解剖学、運動学の復習を十分に行うこと。					
授業計画						
第 1 週	正常歩行の基礎					佐々木
第 2 週	正常歩行の基礎					
第 3 週	正常歩行 足関節／足部					佐々木
第 4 週	正常歩行 足関節／足部					
第 5 週	正常歩行 膝関節					佐々木
第 6 週	正常歩行 膝関節					
第 7 週	正常歩行 股関節					佐々木
第 8 週	正常歩行 股関節					
第 9 週	中間試験（第 1～8 週の範囲）					佐々木
第 10 週	運動学習					佐々木
第 11 週	運動学習					
第 12 週	異常歩行					佐々木
第 13 週	異常歩行					
第 14 週	正常歩行のまとめ、走行					佐々木
第 15 週	正常歩行のまとめ、走行					
備考	小テストは授業の内容を理解することを目的に実施します。 小テストの内容は今まで修学した分野（解剖学、運動学）に関する復習がメインです。 中間試験は正常歩行の基礎的な内容（第 1～8 週）から出題します。					

科目名	機能解剖学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山崎 尚樹 櫻井 亮太					
授業概要	解剖学及び解剖学に基づいた筋・靭帯の触診を習得する。					
到達目標	①筋および靭帯の名称、機能を理解できる ②筋の階層性を理解できる ③表層から正確に筋および靭帯が触診できる					
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 【メジカルビュー】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢体幹 【メジカルビュー】					
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 【医学書院】					
成績評価方法	実技試験	定期試験			計	
	30 点	70 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	・ 予習：解剖学の知識 ・ 復習：教科書に載っている機能解剖学的知識および触診技術					
授業計画						講師名
第 1 回	標本実習：股関節周囲の筋					山崎
第 2 回	標本実習：膝関節周囲の筋					山崎
第 3 回	標本実習：足関節周囲の筋					山崎
第 4 回	標本実習：肩関節周囲の筋					櫻井
第 5 回						
第 6 回	標本実習：肘関節周囲の筋					櫻井
第 7 回	標本実習：手関節周囲の筋					櫻井
第 8 回	触診：長内転筋・大内転筋					山崎 櫻井
第 9 回	触診：大腿筋膜張筋・中殿筋・大殿筋					山崎 櫻井
第 10 回	触診：スカルパ三角関連・腸腰筋・縫工筋					山崎 櫻井
第 11 回	触診：大腿直筋・内側広筋・外側広筋・腸脛靭帯					山崎 櫻井
第 12 回	触診：半腱様筋・半膜様筋・大腿二頭筋					山崎 櫻井
第 13 回	触診：内側側副靭帯・外側側副靭帯・膝蓋靭帯					山崎 櫻井
第 14 回	触診：前脛骨筋・腓腹筋・ヒラメ筋・長／短腓骨筋					山崎 櫻井

第 15 回	触診：三角筋・大胸筋・棘下筋	山崎 櫻井
第 16 回	触診：小円筋・大円筋・広背筋	山崎 櫻井
第 17 回	触診：僧帽筋・菱形筋・前鋸筋	山崎 櫻井
第 18 回	触診：烏口肩峰靭帯・肩鎖靭帯・前胸鎖靭帯	山崎 櫻井
第 19 回	触診：上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋	山崎 櫻井
第 20 回	触診：上腕三頭筋・肘筋・円回内筋	山崎 櫻井
第 21 回	触診：内側側副靭帯・外側側副靭帯・外側尺骨靭帯	山崎 櫻井
第 22 回	触診：橈側手根屈筋・尺側手根屈筋・長短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋・総指伸筋	山崎 櫻井
第 23 回	まとめ：股関節の触診	山崎 櫻井
第 24 回	まとめ：膝関節の触診	
第 25 回	まとめ：足関節の触診	
第 26 回	まとめ：肩関節の触診	
第 27 回	まとめ：肘関節の触診	
第 28 回	まとめ：足関節の触診	
第 29 回	まとめ：上肢の標本実習	
第 30 回	まとめ：下肢の標本実習	

備考	授業中は私語を慎み、真面目に取り組むこと 触診技術の習得は授業中のみでは困難なので授業時間外の練習を十分に行うこと	
----	--	--

科目名	人間発達学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 三沢 峰茂					
授業概要	胎生期から老年期までの発達を、身体、運動、社会性などの領域から概説するとともに、発達段階における臨床的な課題及びそれに対する支援についてとりあげる。個性をもって生まれた一人の人間が、周りの人や環境とのやりとりをしながら発達していくダイナミックな過程の理解を深める。					
到達目標	胎生期の生物学的な成長を説明できる。乳幼児期の運動に関係の深い神経学的所見、発達を説明できる。学童期、青年期、成人期の発達、疾患について理解を深める。老年期の退行期発達や疾患について理解する。					
教科書						
参考書	シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 【南江堂】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	授業中に配布した資料の復習と次回の授業で疑問点の質問することで理解を深める					
授業計画						講師名
第 1 回	人間発達学概論 成長と発達					三沢
第 2 回	発達理論					三沢
第 3 回	発達検査					三沢
第 4 回	胎児の発生、成長					三沢
第 5 回	中枢神経系の発達					三沢
第 6 回	反射					三沢
第 7 回	姿勢・運動の発達 I					三沢
第 8 回	姿勢・運動の発達 II					三沢
第 9 回	視覚・聴覚・手指機能の発達					三沢
第 10 回	口腔機能の発達					三沢
第 11 回	小児期の発達のつまずき					三沢
第 12 回	青年期・成人期の発達					三沢
第 13 回	成人期の発達の偏り					三沢
第 14 回	生活習慣病と日常生活の対策、老年期の特徴					三沢
第 15 回	まとめ					三沢
備考						

科目名	病理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 代田 欣二					
授業概要	ヒトの基本的病変の成立機序と病態形成過程に関する基本的知識を学ぶ。					
到達目標	医療従事者として、病気の原因や病変の成り立ち、転帰を理解する。医学で用いられる病理用語を正確に理解し、使えるようにする。					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版【医学書院】					
参考書	必要に応じて資料を配布する。					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	指定した教科書や配布資料を繰り返し読んで、予習・復習のために役立ててほしい。					
授業計画						講師名
第1回	総論－病理学の概要（第1章）、病因論（第2章）について解説する。					代田
第2回	総論－退行性病変、進行性病変（第3章）について解説する。					代田
第3回	総論－代謝障害（第4章）：蛋白質・アミノ酸、核酸、脂質、糖質、無機物質、色素代謝異常について解説する。					代田
第4回	総論－循環障害（第5章）：体液循環機構、局所循環障害、全身循環障害について解説する。					代田
第5回	総論－免疫（第6章）：免疫の概念、免疫の成立、免疫反応による傷害・炎症、移植免疫について解説する。					代田
第6回	総論－炎症と感染症（第7章）：炎症、感染症について解説する。					代田
第7回	総論－腫瘍（第8章）：腫瘍の定義と分類、腫瘍の形態、悪性腫瘍の進展形式、腫瘍発生の原因、発がんメカニズムについて解説する。					代田
第8回	総論－老化（第9章）：生理的老化・寿命、加齢による生理的老化、加齢と疾患について解説する。先天異常・奇形（第10章）：先天異常・奇形概念、遺伝子異常と遺伝性疾患、染色体異常、奇形について解説する。					代田
第9回	各論－循環器（第1章）：主な循環器疾患について解説する。					代田
第10回	各論－呼吸器（第2章）：主な呼吸器疾患について解説する。					代田
第11回	各論－消化器（第3章）：主な消化器疾患について解説する。					代田
第12回	各論－神経系（第4章）・運動器（第5章）：主な神経系・運動器疾患について解説する。					代田
第13回	各論－泌尿器・生殖器（第6章）、内分泌臓器（第7章）：主な泌尿器・生殖器、内分泌疾患について解説する。					代田
第14回	各論－造血器（第8章）、皮膚・感覚器（第9章）：主な造血器、皮膚・感覚器疾患について解説する。					代田
第15回	まとめ					代田
備考	内容が多いため、総論の授業においても具体的な疾患について触れるので、各自その都度各論の該当部分を勉強してほしい。					

科目名	臨床心理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 黒住 享弘					
授業概要	臨床心理学における基礎的な側面についての学習を進める。さらに対人援助職において、臨床心理学的な視点を持つことの重要性についても理解を深めることを目的とする。					
到達目標	生涯発達の視点にたった人間の心身の発達過程の理解すること 臨床心理学的なアセスメントを理解すること 臨床心理学的なセラピーについて理解すること					
教科書	はじめての臨床心理学【北樹出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	配布資料を軸に教科書の解説を加えた形式にて授業を進めるため、予習復習ともに教科書の内容に目を通すことをポイントとする。					
授業計画						講師名
第 1 回	臨床心理学とは 臨床心理学とは何か、心理学とは何か？					黒住
第 2 回	フロイトと心理学 フロイト、防衛機制					黒住
第 3 回	臨床心理学の歴史 欧米及び日本の臨床心理学の歴史					黒住
第 4 回	心理療法 I 精神分析（フロイト）・分析心理学（ユング）など					黒住
第 5 回	心理療法 II 心理療法（精神分析・分析心理学以外）					黒住
第 6 回	精神力動と認知行動療法 精神力動と認知行動療法					黒住
第 7 回	学習理論 学習理論及び行動療法					黒住
第 8 回	人間性心理学 クライアント中心療法					黒住
第 9 回	心理療法の基礎 心理療法とカウンセリングの違い、基本的な態度など					黒住
第 10 回	発達臨床心理学 心理発達・ライフサイクルについて					黒住
第 11 回	心理アセスメントとは 心理アセスメントについて					黒住
第 12 回	心理検査各論 I 心理検査の説明－知能検査					黒住
第 13 回	心理検査各論 II 心理検査の説明－人格検査					黒住
第 14 回	体験学習 エゴグラムなど					黒住
第 15 回	まとめ					黒住
備考						

科目名	内科学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 曲 寧					
授業概要	将来目指している PT・OT 業務の、円滑な実践に役立つ内科学の一般的知識を修得する。					
到達目標	内科学は医学の中心的学問である。内科疾患は、主としておかされる臓器の系統別によって、呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・神経系疾患などに分類される。講義を通して内科的疾患を単に暗記するだけでなく、病態生理学に基づいて理解する。					
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』（医学書院）					
参考書						
成績評価方法	定期試験	小テスト			計	
	100 点	点	点		100 点	
予習・復習のポイント	配付資料・参考書を活用し予習復習すること					
授業計画						講師名
第 1 回	呼吸器疾患（呼吸器の解剖生理、呼吸器疾患各論）					曲
第 2 回	呼吸器疾患（呼吸器疾患各論）					曲
第 3 回	循環器疾患（循環器の解剖生理、循環器疾患各論）					曲
第 4 回	循環器疾患（循環器疾患各論）					曲
第 5 回	循環器疾患（循環器疾患各論）					曲
第 6 回	消化器疾患（消化器の解剖生理、消化器疾患各論）					曲
第 7 回	消化器疾患（消化器疾患各論）					曲
第 8 回	消化器疾患（消化器疾患各論）					曲
第 9 回	代謝・内分泌疾患（内分泌系の解剖生理、代謝・内分泌疾患各論）					曲
第 10 回	代謝・内分泌疾患（代謝・内分泌疾患各論）					曲
第 11 回	泌尿器疾患（泌尿器の解剖生理、泌尿器疾患各論）					曲
第 12 回	免疫・アレルギー疾患（免疫系の解剖生理、アレルギー疾患・リウマチ性疾患各論）					曲
第 13 回	血液疾患（血液の形態と生理、血液疾患各論）					曲
第 14 回	血液疾患（血液疾患各論）					曲
第 15 回	まとめ					曲
備考						

科目名	内科学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 西戸 輝彦、辻 正富、武市 尚也					
授業概要	各代謝機能を通じて、検査データの読み方を学ぶ					
到達目標	基本的な検査データとその臨床的意義を習得する					
教科書						
参考書	プリントを配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書をよみ、配布するプリントで復習する					
授業計画						講師名
第 1 回	肝臓の解剖と代謝の基礎					西戸
第 2 回	腎臓の解剖と代謝の基礎					西戸
第 3 回	腎臓に関する検査					西戸
第 4 回	造血器					西戸
第 5 回	心臓の解剖と代謝の基礎					西戸
第 6 回	心電図検査の読み方					西戸
第 7 回	心電図の基礎 心電図とは					西戸
第 8 回	肺の解剖と代謝の基礎					西戸
第 9 回	肺機能検査の読み方					西戸
第 10 回	講義総括					西戸
第 11 回	心臓リハビリテーション 1					武市
第 12 回	心臓リハビリテーション 2					武市
第 13 回	がんについて					西戸
第 14 回	小児の心臓病					辻
第 15 回	まとめ					西戸
備考	授業計画（講義内容）の順番が変わることがあります。					

科目名	神経内科学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 廣瀬 好文					
授業概要	中枢・末梢神経系の解剖・生理を基礎として神経・筋の変性疾患を解説する。					
到達目標	神経・筋の変性疾患を基礎的な解剖・生理の知識を土台にして理解する。					
教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経【メディックメディア】					
参考書	プリント配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書で予習し配布するプリントで復習すること					
授業計画						講師名
第 1 回	神経系の全体像と大脳皮質 (1)					廣瀬
第 2 回	神経系の全体像と大脳皮質 (2)					廣瀬
第 3 回	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・脳幹・小脳					廣瀬
第 4 回	中枢神経系の血管とその障害					廣瀬
第 5 回	運動麻痺・不随意運動・運動失調					廣瀬
第 6 回	感覚					廣瀬
第 7 回	自律神経					廣瀬
第 8 回	末梢神経とその障害					廣瀬
第 9 回	神経変性疾患 パーキンソン病・パーキンソン症候群・ハンチントン病					廣瀬
第 10 回	神経変性疾患 認知症					廣瀬
第 11 回	神経変性疾患 脊髄小脳変性・筋委縮性側索硬化症					廣瀬
第 12 回	脱髄疾患 多発性硬化症・ギャランバレー症候群					廣瀬
第 13 回	筋疾患					廣瀬
第 14 回	脊髄椎・脊柱疾患					廣瀬
第 15 回	まとめ					廣瀬
備考						

科目名	神経内科学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 石井 映幸、伊藤 恒					
授業概要	臨床神経学を病気の成り立ちから解説する。 実際の症例を用い、基礎医学の知識を臨床医学へ応用できる力を身につける。					
到達目標	国家試験に出題される範囲を押さえつつ、基礎医学の知識を臨床医学へ応用できるようにする。					
教科書	病気が見える VOL7 脳・神経 【メディックメディア】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習は教科書、復習は配布プリントを読み、理解し辛い箇所は講師に質問する					
授業計画						講師名
第 1 回	脳血管障害 基礎					伊藤
第 2 回	脳血管障害 演習 I					伊藤
第 3 回	脳血管障害 演習 II					伊藤
第 4 回	頭痛・髄膜炎・めまい					伊藤
第 5 回	神経変性疾患					伊藤
第 6 回	脱髄性疾患					伊藤
第 7 回	末梢神経 神経筋接合部疾患 筋疾患					伊藤
第 8 回	脳卒中 I (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)					石井
第 9 回	脳卒中 II (くも膜下出血の治療)					石井
第 10 回	水頭症 (症状と治療)					石井
第 11 回	脳腫瘍 I (悪性腫瘍)					石井
第 12 回	脳腫瘍 II (良性腫瘍)					石井
第 13 回	頭部外傷・脳ヘルニア					石井
第 14 回	意識障害・脳死					石井
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	整形外科学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 阿部 幸一郎、菅原 仁					
授業概要	整形外科疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ					
到達目標	理学療法・作業療法を実施するために必要な整形外科疾患の基礎事項を修得する					
教科書	標準 理学療法学作業療法学 整形外科学【医学書院】					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習復習には教科書を活用すること					
授業計画						講師名
第 1 回	総論 整形外科の基礎知識 1					菅原
第 2 回	総論 整形外科の基礎知識 2					菅原
第 3 回	総論 整形外科の基礎知識 3					菅原
第 4 回	総論 整形外科の基礎知識 4					菅原
第 5 回	総論 整形外科的治療法 1					菅原
第 6 回	総論 整形外科的治療法 2					菅原
第 7 回	各論 脊椎の疾患					阿部
第 8 回	各論 脊髄損傷					阿部
第 9 回	各論 代謝・内分泌疾患 1					阿部
第 10 回	各論 代謝・内分泌疾患 2					阿部
第 11 回	各論 循環障害と壊死性疾患 1					阿部
第 12 回	各論 循環障害と壊死性疾患 2					阿部
第 13 回	各論 先天性骨・関節疾患 1					阿部
第 14 回	各論 先天性骨・関節疾患 2					阿部
第 15 回	まとめ					阿部
備考	定期試験は 2 名の講師それぞれから 50 点満点の試験を課し、2 つの試験の合計 100 点にて評価する					

科目名	整形外科学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 準一郎 松井 剛					
授業概要	整形外科疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ					
到達目標	理学療法・作業療法を実施するために必要な整形外科疾患の基礎事項を修得する					
教科書	標準 理学療法学作業療法学 整形外科学【医学書院】					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習復習には教科書を活用すること					
授業計画						講師名
第 1 回	各論 脊髄損傷 1					村仲
第 2 回	各論 脊髄損傷 2					村仲
第 3 回	各論 骨・軟部腫瘍					松井
第 4 回	各論 神経・筋疾患					松井
第 5 回	各論 骨折 1					村仲
第 6 回	各論 骨折 2					村仲
第 7 回	各論 関節における外傷性疾患 1					松井
第 8 回	各論 関節における外傷性疾患 2					松井
第 9 回	各論 末梢神経における外傷性疾患 1					村仲
第 10 回	各論 末梢神経における外傷性疾患 2					村仲
第 11 回	各論 腱・靭帯における外傷性疾患					松井
第 12 回	各論 スポーツ障害					松井
第 13 回	各論 熱傷 切断および離断					松井
第 14 回	各論 脊椎の疾患					村仲
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	臨床医学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎伊藤 恒・若杉 慶嗣・ 曲 寧・上松 太郎・高橋 知之					
授業概要	精神医学の概念と、代表的な精神疾患の疫学・症候学・治療学等を、生物・心理・社会的側面から理解し、リハビリテーション臨床に応用できる知識・態度を養う。					
到達目標	代表的な精神疾患の特性を、症候学の用語で説明できる。精神を患う主体的苦悩の態様を理解し、精神障害者を目の前にし、症状に圧倒されることなく、疾患特性に基づき、他履修科目で獲得した専門技術を施せる。ひいては、ノーマライゼーションを唱道、推進できる。					
教科書	精神医学 第4版 増補版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点		点	100 点	
予習・復習のポイント	講義に集中することが肝要である。 教科書の該当箇所を通読することを薦める。					
授業計画						講師名
第1回	精神医学の概念 精神障害の特徴・成因・分類。					若杉
第2回	精神症状① 意識・知能・記憶・感情・意欲。					若杉
第3回	精神症状② 自我意識・知覚・思考。					若杉
第4回	精神症状③ 神経心理学的症状。					若杉
第5回	統合失調症と関連障害 統合失調症、持続性妄想性障害、統合失調感情障害を概説する。					曲
第6回	統合失調症と関連障害 統合失調症、持続性妄想性障害、統合失調感情障害を概説する。					曲
第7回	感情障害 双極性感情障害(躁うつ病)、うつ病性障害(うつ病)、持続性気分障害を概説する。					曲
第8回	神経症性障害・ストレス関連障害 不安障害、強迫性障害、PTSD、適応障害、解離性障害、身体表現性障害を概説する。					曲
第9回	生理的障害、身体的要因に関連した障害、パーソナリティ障害 摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害について概説する。					上松
第10回	児童青年精神医学 精神遅滞、広汎性発達障害、多動性障害等を概説する。					上松
第11回	脳器質性精神障害 脳そのものの障害から生じる精神障害。認知症も総覧する。					伊藤
第12回	症状精神障害 身体疾患が脳に影響を及ぼし、精神症状を引き起こすという精神障害。					高橋
第13回	精神作用物質による精神・行動の障害 アルコール、アヘン、覚せい剤、大麻等の精神作用物質による中毒性精神障害を概説する。					上松
第14回	てんかん 症状である発作の型の分類。てんかんの疾病分類の概要。					伊藤
第15回	まとめ					
備考	毎回の講義内容は相当に濃密である。覚悟して臨んで欲しい。 講義中、私語は厳禁である。携帯電話も必ず切ること。					

科目名	臨床医学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 廣瀬 好文、曲 寧、遠藤 朱美、木島 朝子					
授業概要	各疾患の病態生理、検査、治療を学ぶ					
到達目標	各疾患の理学療法・作業療法を実施するために必要な医学的知識を習得する					
教科書	標準 理学療法学作業療法学 小児科学【医学書院】					
参考書	なし					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	小児科学: 予習復習には教科書を活用すること その他診療科項目: 復習は配布したプリント等活用すること					
授業計画						講師名
第 1 回	小児科学 小児科学概論①					曲
第 2 回	小児科学 小児科学概論②					曲
第 3 回	外科 胸部悪性腫瘍					廣瀬
第 4 回	外科 末梢血管疾患					廣瀬
第 5 回	小児科学 先天異常と遺伝病					曲
第 6 回	耳鼻咽喉科学 嚥下障害					遠藤
第 7 回	小児科学 神経・筋疾患・骨系疾患①					曲
第 8 回	耳鼻咽喉科学 嚥下障害					遠藤
第 9 回	小児科学 神経・筋疾患・骨系疾患②					曲
第 10 回	耳鼻咽喉科学 めまい・顔面神経麻痺					遠藤
第 11 回	眼科 白内障・緑内障・糖尿病網膜症					木島
第 12 回	小児科学 消化器疾患、内分泌・代謝疾患					曲
第 13 回	外科 腹部悪性腫瘍					廣瀬
第 14 回	小児科学 循環器疾患・呼吸器疾患					曲
第 15 回	まとめ					廣瀬
備考	教科書は小児科学の講義で使用。他の診療分野はプリントを配付。 定期試験は、各講師から出題した試験を実施する。					

科目名	リハビリテーション医学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 田中 博					
授業概要	リハビリテーションに関与する様々な疾患の特長 リハビリテーション訓練を紹介					
到達目標	各疾患の特長をしっかりと把握した上で、どのようなリハビリ訓練を行っているのかを理解する					
教科書	リハビリテーション医学テキスト【南江堂】					
参考書	プリント配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書と配布プリントを使用して勉強すること					
授業計画						講師名
第 1 回	リウマチ性疾患とその辺縁疾患 関節リウマチおよび他の膠原病リハビリテーションについて説明					田中
第 2 回	小児疾患 小児のリハビリテーションについて説明					田中
第 3 回	切断 上肢および下肢の切断のリハビリについて説明					田中
第 4 回	骨・関節疾患 肩、膝、股の疾患に関するリハビリについて説明					田中
第 5 回	脊髄疾患 脊髄損傷、二分脊椎リハビリについて説明					田中
第 6 回	神経筋疾患 パーキンソン病、ALS 等のリハビリについて説明					田中
第 7 回	脊椎疾患 頸椎・腰椎を中心としたリハビリについて説明					田中
第 8 回	高齢者 高齢者に対するリハビリについて説明					田中
第 9 回	内部疾患① 循環器・呼吸器・腎臓・肝臓・糖尿病・肥満高血圧等のリハビリテーションについて説明					田中
第 10 回	内部疾患② 循環器・呼吸器・腎臓・肝臓・糖尿病・肥満高血圧等のリハビリテーションについて説明					田中
第 11 回	末梢循環障害 末梢循環障害のリハビリについて説明					田中
第 12 回	脳疾患 脳梗塞・脳出血などのリハビリについて説明					田中
第 13 回	末梢神経障害 末梢神経障害に対するリハビリについて説明					田中
第 14 回	その他の疾患 熱病やがんに対するリハビリについて説明					田中
第 15 回	まとめ					田中
備考						

科目名	リハビリテーション医学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 星川嘉一、兼坂茂、辻正富、加藤裕久、佐野和美、住吉克彦、小泉由香里、板橋由加里					
授業概要	本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズム、人体と栄養素の相互作用について栄養学の基礎、救急医療・画像診断についての基礎と概念、予防医学についての理学療法士分野における概念を理解することを目的とする。					
到達目標	理学療法を実施する際に必要な薬学、栄養学、画像診断学、救命・予防医学の知識を習得する。					
教科書	リハベーシック安全管理学・救急医療学【医歯薬出版】 リハビリテーション医療に活かす画像のみかた【南江堂】 まるごとわかる！生活習慣病【南山堂】					
参考書	プリント配布					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	講義に集中することが肝要である。					
授業計画						講師名
第 1 回	リハビリテーションにおける薬学① 薬剤の体内動態および薬理作用					佐野
第 2 回	リハビリテーションにおける薬学② 薬剤の副作用および禁忌行為					加藤
第 3 回	リハビリテーションにおける栄養学① 栄養素の生理や代謝の仕組み					住吉
第 4 回	リハビリテーションにおける栄養学② 栄養素の消化吸収、エネルギー利用や生態の構成材料利用					住吉
第 5 回	リハビリテーションにおける画像診断学① CT・MRI の違いについて					星川
第 6 回	リハビリテーションにおける画像診断学② 中枢疾患(脳実質、脳血管)の見方					星川
第 7 回	リハビリテーションにおける画像診断学③ 整形疾患の見方					星川
第 8 回	リハビリテーションにおける救命医療① 救命医療と救命医学について					兼坂
第 9 回	リハビリテーションにおける救命医療② AED を含めた一般市民が行える心肺蘇生の実践					小泉 板橋
第 10 回	リハビリテーションにおける救命医療③ ICU における医療					兼坂
第 11 回	リハビリテーションにおける救命医療④ 呼吸管理について					兼坂
第 12 回	リハビリテーションにおける予防医療① 予防医学の歴史と基礎					辻
第 13 回	リハビリテーションにおける予防医療② 健康管理と身体トレーニング					辻
第 14 回	リハビリテーションにおける予防医療③ 疾患別予防医学の基礎知識					辻
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	リハビリテーション概論	対象学科		理学療法学科	
		開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野	講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 米本竜馬				
授業概要	リハビリテーションの概念・理念・定義を理解した上で、日本における医学的リハビリテーションの展開を理学療法士の視点から学ぶ。基本的内容としては、リハビリの概念、医療従事者としての倫理、チーム医療、リハビリの過程、医療・福祉の法律、地域リハなどについて学習する。				
到達目標	リハビリテーションについて、その理念、歴史、内容に付いて理解し、説明することができる。				
教科書	リハビリテーション基礎からナビゲーション				
参考書					
成績評価方法	定期試験		計		
	100 点		100 点		
予習・復習のポイント	授業計画の各表題は、教科書の目次とリンクしています。				
回	日時	授業計画			講師名
1	4 月 9 日 (水) 3 限	1 章 リハビリテーションとはどのようなものか 2 章 リハビリテーションはなぜ必要か			米本
2	16 日 (水) 3 限	3 章 リハビリテーションに関わる医療職って何？ 4 章 授業前に身につけたい基礎知識			
3	23 日 (水) 3 限	5 章 人間の身体を見てみよう			
4	5 月 1 日 (木) 4 限	6 章 身近なリハビリテーション 1. 脳血管疾患のリハビリテーション			
5	8 日 (木) 4 限	2. 運動器リハビリテーション			
6	21 日 (水) 3 限	3. 呼吸リハビリテーション 4. 心臓リハビリテーション			
7	28 日 (水) 3 限	5. 摂食嚥下リハビリテーション 6. 小児のリハビリテーション			
8	6 月 4 日 (水) 3 限	7. がんのリハビリテーション 8. 切断のリハビリテーション 9. 精神科のリハビリテーション 7 章 実習における心構えとレポートの書き方			
9	11 日 (水) 2・3 限	福祉機器について・発表準備			
10		発表準備			
11	25 日 (水) 2・3 限	発表準備			
12		発表準備			
13	7 月 2 日 (水) 3 限	発表準備			
14	9 日 (水) 3 限	発表			
15	試験期間	まとめ			
備考					

科目名	社会福祉学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	黒木貴洋・松本郁（鎌倉市地域包括支援センターふれあいの泉） ◎扇谷秀樹（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 社会福祉専攻科専任教員）					
授業概要	本講義は社会保障の概念、対象、制度を概観し、関連する領域（特に社会福祉）にも視野を広げます。基本的にはテキストの重要事項を中心に、解説を行います。					
到達目標	社会保障と社会福祉実践について理解し、その要点を簡潔に説明できること。					
教科書	1. 『見て覚える！精神保健福祉士国試ナビ 2025』 中央法規 2. 『精神保健福祉士国家試験専門科目キーワード改訂第 2 版』、へるす出版					
参考書	YouTube カリスマ社会福祉士のページ https://www.youtube.com/c/karisuma					
成績評価方法	定期試験	小テスト	レポート	計		
	100 点	なし	なし	100 点※備考参照		
予習・復習のポイント	予習復習もさることながら、テキストの章末の問題集を解き、上記テキスト等で調べ尽くすことを反復されることが日常の学習にも、国家試験突破にも役立つと思われます。					
授業計画						講師名
	教科書(下記は授業の進み具合で、内容が前後する場合があります)			テキストのページ		
第 1 回	①統計データ (Unit 1)、②脳の仕組み (Unit 2) ③代表的な精神疾患 (Unit 3-6)			p 15-37		扇谷
第 2 回	③代表的な精神疾患 (Unit 7-10)			p 38-53		扇谷
第 3 回	⑬精神保健福祉士 (Unit 27・28)			p 185-197		黒木
第 4 回	⑤ICF (Unit 13)、⑭ソーシャルワーク (Unit 29~32)			p 84、p 198-215		黒木
第 5 回	⑫その他 (Unit 25~26)			p 164-178 (-184)		黒木
第 6 回	⑦障害者福祉の概要 (Unit 14~15)、⑧医療支援 (Unit 16)			p 93-111		黒木
第 7 回	⑨経済的支援 (Unit 19~20)			p 121-131		黒木
第 8 回	⑪まとめて整理 (Unit 33)			p 216-222 (228)		扇谷
第 9 回	特論 介護保険制度論			配布資料		扇谷
第 10 回	⑧医療支援 (Unit 17~22)			p 112-120		松本
第 11 回	⑩生活支援 (Unit 21~22)			p 132-147		松本
第 12 回	⑪就労支援 (Unit 23~24)			p 148-163		松本
第 13 回	⑤精神保健 (Unit 11~12)			p 54-76		松本
第 14 回	⑤精神保健 (Unit 13)			p 77-83 (85-92)		松本
第 15 回	定期試験（または 50 問、マークシート方式。原則すべてが事例です。読むスピードを付けるように心がけることをすすめます）。再試験の場合は、別途指示します。					扇谷
備考	①昨年度の授業実績と比して、内容等を大幅に変えてあるので、注意してください。 ②授業範囲のテキストに目を通しておくことをメインにした予習を前提にして授業を行います。 ④高等学校で「公共」「現代社会」「政治経済」を未履修の方は、自己責任、自助努力でフォローすることを強く勧めます。 ⑤授業時間以外の質問等は、基本的に学科主任・担任の先生に事前にご相談の上、ご了解をいただいでから行って下さい。一旦科目責任者：扇谷（社会福祉専攻科：内線 506）が窓口となり、各先生に繋ぐ形をとります。ただし科目責任者は土日勤務多く平日不在のことが多いので注意）。 ⑥新型コロナウイルス感染症等の状況により、遠隔授業または課題学習になる場合もあり得ます。 ⑦教科書 2 は、試験の範囲に定めます。教科書 1 の授業時にあわせ、必ず予習しておいてください。 ⑧最終授業回と、定期試験の間が 7 日と限られるため、用意周到に準備をされるよう期待します。					

科目責任者 扇谷アドレス：ougiya@crc.ac.jp（扇谷：内線 506）

科目名	医療社会学		対象学科		理学療法学科	
			対象学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛・増田 信代・高田 麗・古谷 実・岩淵 裕					
授業概要	医療社会学の基本的概念、即ち、健康や疾病をめぐる社会的要因と社会的施策について、また、それらに関係する自立支援と就労支援、医療制度と社会制度について学ぶ。多職種の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えるとともに、自職種の役割を追究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療社会学の概念を理解できる 2 自立支援と就労支援、医療制度と社会保障制度について理解する 3 自己の専門職としての役割と責任を理解する 4 チーム内の専門性を理解する 5 多職種連携における協働を促進するコミュニケーションの重要性を理解する 					
教科書						
参考書						
成績評価方法	レポート	出席点			計	
	100 点	点		点	100 点	
予習・復習のポイント	事例を通じて、他職種の役割について自ら考える 各職種の講義を確認することで、自分の考えを確認または修正する					
授業計画						講師名
第 1 回	医療社会学の概念					高田
第 2 回	健康や疾病をめぐる社会的要因と社会的施策					高田
第 3 回	自立支援と就労支援					高田
第 4 回	医療制度と社会制度					高田
第 5 回	マネジメント チーム医療で大切なこと 事例課題提示					増田
第 6 回	多職種連携① チーム医療における MSW、ケアマネージャーの役割					高田
第 7 回	多職種連携②-1 チーム医療における PT の役割					古谷
第 8 回	多職種連携②-2 チーム医療における PT の役割					古谷
第 9 回	多職種連携③-1 チーム医療における OT の役割					山根
第 10 回	多職種連携③-2 チーム医療における OT の役割					山根
第 11 回	多職種連携④-1 チーム医療における ST の役割					岩淵
第 12 回	多職種連携④-2 チーム医療における ST の役割					岩淵
第 13 回	多職種連携⑤-1 チーム医療における Ns の役割					増田
第 14 回	多職種連携⑤-3 チーム医療における Ns の役割					増田
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	地域リハビリテーション		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域理学療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 樋口 美幸					
授業概要	地域リハビリテーション学では、主として医療機関退院後、あるいは障害を有しながら地域で生活する人々の生活障害やそれらに対する理学療法介入の実際について学習する。同時に健康づくりや予防的視点からの理学療法介入についても学習を行う。					
到達目標	人々の生活上のさまざまな障害や生活状況を、ICF 概念に基づき多面的に把握し、生活機能を高めるための理学療法士の取り組みをイメージできるようにする。また将来、臨床への従事を志す学生が、患者の退院後の生活や、慣れ親しんだ環境での生活を支援する視点を持てることを目標とする。					
教科書						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 浅川育世著 (医歯薬出版株式会社) ・15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「地域理学療法学」(中山書店) ・ゴールドマスターシリーズ 「地域理学療法学」 柳澤健著 (メジカルビュー) 					
成績評価方法	中間試験	期末試験			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	内容が広範囲にわたるため教科書・参考書及び授業資料をよく参照し理解を図ること					
授業計画						講師名
第 1 回	・「CBR」：地域リハビリとは、地域理学療法の概念					樋口
第 2 回	・「地域理学療法」：地域理学療法の制度歴史、地域理学療法の対象者					樋口
第 3 回	・「CBR と社会・環境」：ノーマライゼーション、エンパワーメント、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、家族指導					樋口
第 4 回	・「IPE/IPW」：多職種連携、地域連携会議（クリティカルパス）、地域リハビリニーズ					樋口
第 5 回	・「予防リハビリ」ロコモティブシンドローム、転倒予防、MCI のリハビリ					樋口
第 6 回	・「予防リハビリ」：フレイル・サルコペニアと栄養リハ					樋口
第 7 回	・「CBR 領域における評価判定」：老研式活動能力指標、障害老人の日常生活自立度判定基準、閉じこもりアセスメント、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、LSA、SF-36、「フィジカルアセスメント」					樋口
第 8 回	・「中間試験」					樋口
第 9 回	・「介護保険制度」：介護保険制度について					樋口
第 10 回	・「障害者総合支援法」：障害者総合支援法概要・制度変遷					樋口
第 11 回	・「要介護認定」：介護保険要介護認定、ケアマネジメント					樋口
第 12 回	・「地域包括ケアシステム」：社会資源、地域包括ケアシステム、地域共生社会					樋口
第 13 回	・「地域包括支援センター」、「地域支援事業」、「認知症について」					樋口
第 14 回	・「認知症高齢者との接し方」：ユマニチュード技法					樋口
第 15 回	・「まとめ」					樋口
備考						

科目名	理学療法概論		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎理学療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 坪内敬典					
授業概要	理学療法教育に関する一連の流れを学習する					
到達目標	理学療法の基礎的事項を把握すること。また、理学療法に関わる基本的な介入体系および理学療法領域における基礎を学ぶ。					
教科書	理学療法概論テキスト 南江堂					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点		点	100 点	
予習・復習のポイント	各項の学習目標を理解し復習する					
授業計画						講師名
第 1 回	理学療法の定義、役割、各種技術、歴史、障害、					坪内
第 2 回	理学療法と障害、国際障害分類（ICIDH）					坪内
第 3 回	理学療法関連法規・諸制度					坪内
第 4 回	理学療法の対象、領域					坪内
第 5 回	理学療法の臨床思考、実際の流れ					坪内
第 6 回	理学療法の介入体系、医療の現場、保健・福祉の現場					坪内
第 7 回	理学療法の教育研究の現場、スポーツの現場					坪内
第 8 回	理学療法の職能団体、WCPT、ACPT、JPTA					坪内
第 9 回	理学療法の教育体系、我が国における変遷、教育の現状、臨床実習					坪内
第 10 回	QOL、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン					坪内
第 11 回	理学療法の研究方法①					坪内
第 12 回	理学療法の研究方法②					坪内
第 13 回	理学療法と報酬、医療保険制度、介護保険制度					坪内
第 14 回	理学療法と関連する施設基準と報酬、医療経済学、管理					坪内
第 15 回	まとめ					坪内
備考						

科目名	症候障害学 I	対象学科		理学療法学科	
		開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野	講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎理学療法学	コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 米本 竜馬				
授業概要	ICF についての講義と架空症例を使ったグループワークと発表を行う。				
到達目標	ICF の概念を理解する。必要な評価項目を挙げられる。情報を ICF にもとづいて適切に分類できる。患者の障害像を把握できる。適切なゴール設定ができる。症例のレポートと発表を行うことができる。				
教科書	ICF の理解と活用				
参考書	ICF 国際生活機能分類				
成績評価方法	試験成績を主に総合的に判断する。				
予習・復習のポイント	積極的にグループワークに参加する				
授業計画					講師名
第 1 回	ICF の概要				米本
第 2 回	ICF モデル				米本
第 3 回	ゴール設定				米本
第 4 回	コーディング				米本
第 5 回	架空症例 (TKA)				米本
第 6 回	中間試験 SCI 症例提示 (映画)				米本
第 7 回	発表準備				米本
第 8 回	発表準備				米本
第 9 回	発表				米本
第 10 回	症例紹介				米本
第 11 回	発表準備				米本
第 12 回	発表準備				米本
第 13 回	発表準備				米本
第 14 回	発表				米本
第 15 回	まとめ				米本
備考					

科目名	症候障害学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	人体の構造と機能及び心身の発達		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 岡崎 浩二 五十嵐 祐介					
授業概要	1. ICF の概念を用いた患者像の把握、ゴール設定、治療内容の立案の方法の理解と実践。 2. 理学療法診療記録法 (SOAP) を用いた、臨床的思考の理解と実践。 3. 総合的臨床技能の習得					
到達目標	・ ICF、SOAP を用いて患者像の構築、臨床思考を十分に表出できる。 ・ 客観的能力試験 (OSCE) に定められた技能の習得					
教科書	臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版【金原出版】					
参考書						
成績評価方法	実技試験		レポート		計	
	90 点		10 点		100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 週	講義：ICF にもとづいた患者像の把握①					岡崎
第 2 週	講義：ICF にもとづいた患者像の把握②					岡崎
第 3 週	講義：理学療法診療記録法 (SOAP) を用いた、臨床的思考の理解					岡崎
第 4 週	演習：診療記録法の実際、リハカルテ作成練習、レポートの配布					岡崎
第 5 週	実技試験の説明 (OSCE の説明) 実技：臨床技能習得 コミュニケーション技法、療法士面接					五十嵐
第 6 週	実技：臨床技能習得 ROM 評価 (肩関節外転、股関節屈曲、足関節背屈)					五十嵐
第 7 週	実技：臨床技能習得 筋力測定 (肩関節屈筋、股関節外転筋)					五十嵐
第 8 週	実技：臨床技能習得 四肢長周径 (前腕周、棘果長、転子果長)					五十嵐
第 9 週	実技：臨床技能習得 整形外科検査 (drop arm sign, ラセーグ徴候)					五十嵐
第 10 週	実技：臨床技能習得 感覚検査 (触覚 (上肢)、受動運動覚 (下肢))					五十嵐
第 11 週	実技：臨床技能習得 反射検査 (膝蓋腱反射・ホフマン反射、アキレス腱反射・バビンスキー反射、上腕三頭筋反射・トレムナー反射)					五十嵐
第 12 週	実技：臨床技能習得 麻痺側運動機能評価 (BRS 上下肢 stageⅣ, 上下肢 stageⅤ, 手指 stageⅣ・Ⅴ)					五十嵐
第 13 週	実技：臨床技能習得 運動失調検査 (指鼻指試験, foot pat)					五十嵐
第 14 週	実技：臨床技能習得 疾患別介助法					五十嵐
第 15 週	まとめ					五十嵐
備考						

科目名	症候障害学Ⅲ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 櫻井 亮太、五十嵐 祐介					
授業概要	国家試験に向けた、運動解剖生理学分野の理解					
到達目標	理学療法士国家試験 運動解剖生理学の分野で70%以上正答できる					
教科書	クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 2025 共通問題					
参考書	国試の達人 運動解剖生理学編					
成績評価方法	レポート		本試験		計	
	点		100 点		100 点	
予習・復習のポイント	基礎分野の学習の範囲・深さを理解し、国家試験に向けた自己学習の程度を理解する。					
授業計画						講師名
1	生理学（細胞と組織）					櫻井
2	生理学（ATP 合成と膜電位）					櫻井
3	生理学（感覚器の構造と機能）					櫻井
4	生理学（呼吸）					櫻井
5	生理学（循環）					櫻井
6	生理学（体温調整と腎機能）					櫻井
7	生理学（エネルギーと栄養）					櫻井
8	運動学					五十嵐
9	運動学					五十嵐
10	運動学					五十嵐
11	運動学					五十嵐
12	運動学					五十嵐
13	運動学					五十嵐
14	運動学					五十嵐
15	生理学・運動学 まとめ					櫻井
備考	実習時期の都合で順番が前後することがあるので注意。					

科目名	リハビリテーション総論		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 岡崎 浩二 櫻井亮太 坪内敬典 米本竜馬 山崎尚樹 松井剛 佐々木千裕 五十嵐祐介 齊藤琴子					
授業概要	国家試験に向けた、基礎分野・理学療法専門分野の理解					
到達目標	理学療法士国家試験で 70%以上正答できる					
教科書	QB 共通問題、QB 専門問題					
参考書	教員毎に提示					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	授業で扱いきれない部分もあるため、教科書の該当範囲を幅広く学ぶこと。					
授業計画						講師名
1	基礎分野	骨・関節・靭帯 (QB 共通分野 A)				山崎
2	基礎分野	筋 (QB 共通分野 AB)				山崎
3	基礎分野	上肢の運動学・下肢の運動学・顔面と体幹 (QB 共通分野 C)				松井
4	基礎分野	理学療法概論 (QB 専門分野 M)				松井
5	基礎分野	歩行・バイオメカニクス (QB 共通分野 C)				佐々木
6	基礎分野	運動学習 (QB 共通分野 C) 専門分野 生体力学 (QB 専門分野 A)				佐々木
7	基礎分野	神経 (QB 共通分野 AB)				米本
8	基礎分野	感覚受容器 (QB 共通分野 B)				米本
9	基礎分野	循環系・呼吸系 (QB 共通分野 AB)				五十嵐
10	基礎分野	内科 (QB 共通分野 E)				五十嵐
11	基礎分野	消化と吸収 (QB 共通分野 AB)				櫻井
12	基礎分野	代謝・発生と組織 (QB 共通分野 AB)				櫻井
13	基礎分野	リハビリテーション概論 (QB 共通分野 B)				坪内
14	専門分野	物理療法 (QB 専門分野 C)				坪内
15	基礎分野	病理学・人間発達 (QB 共通分野 DJ)				櫻井
16	基礎分野	臨床心理学・精神医学 (QB 共通分野 GH)				櫻井
17	基礎分野	中枢神経・筋疾患 (QB 共通分野 F)				齊藤
18	専門分野	運動療法 (QB 専門分野 B)				松井
19	基礎分野	整形外科 (QB 共通分野 I)				岡崎
20	基礎分野	姿勢・泌尿器と生殖器・ホルモン (QB 共通分野 AB)				岡崎
21	専門分野	整形外科学 (QB 専門分野 G)				佐々木
22	専門分野	整形外科学 (QB 専門分野 G)				佐々木
23	専門分野	理学療法評価学 (QB 専門分野 D)				山崎
24	専門分野	補装具療法 (QB 専門分野 K)				齊藤

25	専門分野 内科疾患 (QB 専門分野 E)	五十嵐
26	専門分野 小児科学 (QB 専門分野 F)	五十嵐
27	専門分野 脳血管障害 (QB 専門分野 H)	米本
28	専門分野 神経・筋障害 (QB 専門分野 I)	米本
29	専門分野 脊髄損傷 (QB 専門分野 J)	岡崎
30	専門分野 ADL (QB 専門分野 L)	岡崎
備考	開講日, 場所は別紙にて提示する.	

科目名	理学療法管理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法管理学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 坪内 敬典					
授業概要	患者・障害者に対して一定水準の治療等のサービスが効果的に提供されるための必要なマネジメント知識を学習する					
到達目標	①職場管理・運営 ②専門職としての研修の在り方 ③記録・報告の持つ意味の理解 ④環境整備 ⑤事故対応策 ⑥保険制度の理解し、コスト感覚を持つことの重要性					
教科書	理学療法管理学-良質な医療・介護提供のための管理運営・政策論-【南江堂】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	第 1 章 A. B. C. D					坪内
第 2 回	第 1 章 E. F. G. H					坪内
第 3 回	第 2 章 A. B. C. D					坪内
第 4 回	第 2 章 E. F. G. H. I					坪内
第 5 回	第 3 章 臨床現場におけるデータ管理					坪内
第 6 回	第 3 章 ビックデータと政策					坪内
第 7 回	第 4 章 医療・介護の制度と報酬					坪内
第 8 回	第 4 章 政策とその形成過程、医療・介護の財政および制度					坪内
第 9 回	第 5 章 身分法とその職能団体					坪内
第 10 回	第 5 章 業務と政治活動の必要性					坪内
第 11 回	第 6 章 職域拡大とその背景					坪内
第 12 回	第 6 章 職域拡大の現状と方向性					坪内
第 13 回	第 7 章 取り巻く社会情勢に適合した理学療法士へ					坪内
第 14 回	第 7 章 社会情勢を踏まえた未来への開拓					坪内
第 15 回	まとめ					坪内
備考						

科目名	職業倫理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法倫理学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 坪内 敬典					
授業概要	基本的な倫理を学び、それを前提として医療職としてリハビリテーション分野の倫理要項を理解する。職業倫理を高める態度を養うため、グループ討論を行いその成果を報告しレポートに纏める。					
到達目標	理学療法倫理に関する概念と方法論とを広義に理解・認識する。					
教科書						
参考書						
成績評価方法	定期試験	レポート	プレゼンテーション	計		
	50 点	25 点	25 点	100 点		
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	倫理学の概要					坪内
第 2 回	リハビリテーション分野の倫理学					坪内
第 3 回	討論 インフォームドコンセント					坪内
第 4 回	討論 インフォームドコンセント					坪内
第 5 回	討論 感染症（コロナ）					坪内
第 6 回	討論 感染症（コロナ）					坪内
第 7 回	討論 ハラスメント					坪内
第 8 回	討論 ハラスメント					坪内
第 9 回	討論 席を譲る行為					坪内
第 10 回	討論 席を譲る行為					坪内
第 11 回	討論 地球温暖化					坪内
第 12 回	討論 地球温暖化					坪内
第 13 回	討論 理学療法士を目指す自分					坪内
第 14 回	討論 理学療法士を目指す自分					坪内
第 15 回	まとめ					坪内
備考						

科目名	理学療法評価学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法評価学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 佐々木千裕 五十嵐祐介					
授業概要	理学療法評価の基礎と概要を理解する					
到達目標	バイタルサイン、形態測定、反射検査の意義を理解する バイタルサイン、形態測定、反射検査の評価手技を身につける バイタルサイン、形態測定、反射検査の理解に必要な知識を習得する					
教科書	理学療法評価学 改訂第 6 版【金原出版株式会社】					
参考書	PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版補訂版【金原出版株式会社】 ベッドサイドの神経の診かた 改定 18 版【南山堂】					
成績評価方法	実技試験	定期試験	小テスト	計		
	20 点	80 点	α 点	100 点		
予習・復習のポイント	解剖学、生理学の復習					
授業計画						講師名
第 1 回	総論（理学療法評価とは？医療面接法と内容を理解する）					佐々木
第 2 回						
第 3 回	体温・呼吸・血圧・脈拍の測定					佐々木
第 4 回						
第 5 回	身長・体重・BMI・四肢長・周径					佐々木
第 6 回						
第 7 回						
第 8 回	実技テスト					佐々木 五十嵐
第 9 回						
第 10 回	深部腱反射・表在反射					佐々木
第 11 回						
第 12 回	病的反射					佐々木
第 13 回						
第 14 回	実技テスト					佐々木 五十嵐
第 15 回						
備考	解剖学、生理学の基礎知識が必須 該当範囲に相当する分野の復習を行なうこと 到達目標は技術の習得だけでなく、国家試験レベルの知識の習得も含みます 各講義後の小テストへの取組も重要です					

科目名	理学療法評価学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法評価学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 佐々木千裕 五十嵐祐介 斉藤琴子					
授業概要	筋力検査における、観察と情報収集、面接と問診などの基本的な考え方を学習する。 また、筋力検査の目的と種類、内容を学習する。					
到達目標	①.筋力検査の目的、種類を理解できる。 ②.粗大筋力検査、徒手筋力検査の判断基準、テスト方法、代償運動を理解できる。 ③.粗大筋力、徒手筋力の検査が実際にできる。					
カリキュラムの中での位置づけ	筋力検査は理学療法専門科目において基本的な検査・測定技術のうちの1つであり、基礎的知識として解剖学や運動学の知識が必要である。					
教科書	新・徒手筋力検査法 原書第10版【協同医書出版社】 理学療法評価学 改訂第6版【金原出版株式会社】					
参考書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(下肢・体幹)【MEDICAL VIEW】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版(上肢) 【MEDICAL VIEW】					
成績評価方法	定期試験		実技試験		計	
	70 点		30 点		100 点	
授業計画						講師名
第1回	オリエンテーション 総論・MMT 概要					佐々木
第2回	徒手筋力テストー1 下肢の筋力(膝関節)					五十嵐
第3回						斉藤
第4回	徒手筋力テストー2 下肢の筋力(股関節)					五十嵐
第5回						斉藤
第6回	徒手筋力テストー3 下肢の筋力(股関節、足関節、足部)					五十嵐
第7回						斉藤
第8回	徒手筋力テストー4 下肢の筋力(足関節、足部)					五十嵐 斉藤
第9回	徒手筋力テストー5 下肢の筋力 のまとめ(実技試験①)					佐々木
第10回						五十嵐 斉藤
第11回	徒手筋力テストー6 上肢の筋力(肩関節)					佐々木
第12回						斉藤
第13回	徒手筋力テストー7 上肢の筋力(肩関節・肩甲骨)					佐々木
第14回						斉藤
第15回	徒手筋力テストー8 上肢の筋力(肩甲骨・肘関節)					佐々木
第16回						斉藤
第17回	徒手筋力テストー9 上肢の筋力(肘関節・前腕・手関節)					佐々木
第18回						斉藤
第19回						佐々木

第 20 回	徒手筋力テスト—10 上肢の筋力 のまとめ（実技試験②）	五十嵐 斉 藤
第 21 回	徒手筋力テスト—11 頸筋の筋力	佐々木 斉 藤
第 22 回		
第 23 回	徒手筋力テスト—12 体幹筋の筋力	佐々木 斉 藤
第 24 回		
第 25 回	徒手筋力テスト—13 頸筋・体幹筋の筋力 のまとめ（実技試験③）	佐々木 五十嵐 斉 藤
第 26 回		
第 27 回	徒手筋力テスト—14 顔面筋・その他	佐々木
第 28 回		
第 29 回 第 30 回	徒手筋力テスト—15 全体のまとめ	
備考		

科目名	理学療法診断学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法評価学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 米本 竜馬					
授業概要	理学療法評価全般と関節可動域測定について理解する。学生同士が検査者、被検査者となり検査結果の信頼性を高めるために繰り返し演習を通して学習する。また、実際の疾患を想定し、適切な関節可動域測定を行えるように練習する。					
到達目標	模擬患者に対して適切な関節可動域測定を行うことができる。					
教科書	理学療法評価学 改訂 5 版【金原出版株式会社】 PT・OT のための臨床技能と OSCE【金原出版株式会社】 機能解剖学的触診技術 上肢・下肢【MEDICAL VIEW】					
参考書	ネッター解剖学カラーリングテキスト【南江堂】 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系【医学書院】					
成績評価方法					計	
	筆記試験 100 点	実技試験	点		100 点	
予習・復習のポイント	実技練習を行う。					
授業計画（前期）					講師名	
第 1 回	理学療法評価とは				米本	
第 2 回	スタンダードプレコーション					
第 3 回	関節可動域測定とは					
第 4 回	触診の基礎					
第 5 回	筆記試験					
第 6 回	肩甲帯・肩					
第 7 回	肩					
第 8 回	肩					
第 9 回	実技試験					
第 10 回	実技試験					
授業計画（後期）			1 組	2 組	講師名	
第 11 回	肘・前腕				米本	
第 12 回	手関節					
第 13 回	母指・手指					
第 14 回	股関節					
第 15 回	股関節・膝関節					
第 16 回	足関節・足部					

第 17 回	母趾・足趾・頸部		米本
第 18 回	胸腰部		
第 19 回	実技試験対策		
第 20 回	実技試験対策		
第 21 回	SOAP について		
第 22 回	OSCE について		
第 23 回	コミュニケーション技法		
第 24 回	肩関節周囲炎		
第 25 回	変形性股関節症		
第 26 回	足関節内反捻挫		
第 27 回	実技試験（OSCE 形式）		
第 28 回	実技試験（OSCE 形式）		
第 29 回	まとめ		
第 30 回			
備考			

科目名	理学療法診断学Ⅱ（感覚等）		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	基礎分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法評価学		コマ数	30 コマ	時間数	30 時間
担当教員(◎印は科目責任者)	◎ 五十嵐 祐介 坪内敬典					
授業概要	理学療法評価、観察と情報、面接と問診などの基本的な考え方を学習する。また、理学療法評価の種類と内容の概略を学習する。					
到達目標	基本的な理学療法機能診断を理解し説明することができる。基本的な評価バッテリーを理解し、模擬的に実施できる。					
教科書	理学療法評価学 改訂第 6 版【金原出版株式会社】 ベッドサイドの神経の診かた改訂 18 班【南山堂】 病気がみえる Vol.2 循環器 第 5 版【MEDIC MEDIA】					
参考書	PT・OT のための臨床技能と OSCE：コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 補訂版【金原出版株式会社】					
成績評価方法	実技試験	定期試験	小テスト		計	
	40 点	50 点	10 点		100 点	
予習・復習のポイント	25・26 回で病気がみえる Vol.2 循環器を使います					
授業計画						講師名
第 1 回	感覚検査 小テスト①					五十嵐
第 2 回						
第 3 回	筋緊張検査 小テスト②					五十嵐
第 4 回						
第 5 回	脳神経検査小テスト③					五十嵐
第 6 回						
第 7 回	高次脳機能検査 小テスト④					五十嵐
第 8 回						
第 9 回	演習 11/1					五十嵐
第 10 回						
第 11 回	実技のまとめ（実技試験）					五十嵐 坪内
第 12 回						
第 13 回	片麻痺機能検査 小テスト⑤					五十嵐
第 14 回						
第 15 回	バランス検査 小テスト⑥					五十嵐
第 16 回						
第 17 回	協調性検査 小テスト⑦					五十嵐
第 18 回						
第 19 回	演習					五十嵐
第 20 回						
第 21 回	実技のまとめ（実技試験）					五十嵐 坪内
第 22 回						
第 23 回	呼吸機能検査 小テスト⑧					五十嵐
第 24 回						
第 25 回	循環機能検査 小テスト⑨					五十嵐
第 26 回						
第 27 回	血液・生化学検査 小テスト⑩					五十嵐
第 28 回						
第 29 回	まとめ					五十嵐
第 30 回						
備考	小テストは授業の最後にその日の授業内容についての問題を出します					

科目名	動作分析学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	基礎理学療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山崎 尚樹					
授業概要	今まで学んできた、生理学・解剖学・運動学の知見を参考に、実際の姿勢および動作を観察しその原理原則を理解する。					
到達目標	①動作分析学の基礎となる筋収縮特性や筋・骨格の解剖学的知識を理解する。 ②姿勢および動作を理解するために必要な基本的力学的原理を説明できる。 ③特定の疾患の姿勢および動作について力学的に説明できる。					
教科書	実践！動作分析 第2版【医歯薬出版】					
参考書	筋骨格系のキネシオロジー第2版【医歯薬出版】					
成績評価方法	中間試験	レポート			計	
	30 点	70 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：物理学、運動学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの該当範囲 ・復習：該当範囲の教科書、スライドで提示した内容 					
授業計画						講師名
第1回	授業概要、動作分析とは、身体重心とその分布、重心と重心線、支持基底面、床反力					山崎
第2回	床反力と加速度、慣性の法則、運動量、力積					山崎
第3回	動作分析の着眼点、逸脱動作、姿勢制御、実行能力の分析					山崎
第4回	起き上がり動作①					山崎
第5回	起き上がり動作②					山崎
第6回	立ち上がり動作①					山崎
第7回	立ち上がり動作②					山崎
第8回	歩行動作①					山崎
第9回	歩行動作②					山崎
第10回	歩行動作③					山崎
第11回	変形性関節症および人工関節置換術における動作分析					山崎
第12回	チーム課題：脳血管障害による片麻痺における動作分析					山崎
第13回	チーム課題：脳血管障害による片麻痺における動作分析					山崎
第14回	総復習					山崎
第15回	まとめ					山崎
備考						

科目名	運動生理学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 富田エミ					
授業概要	動く生き物としてのヒトの生命活動の基本現象を捉えながら、運動と関連深い生理的諸機能（神経・筋・呼吸・循環・ホルモン・エネルギー代謝・水分代謝・体温など）を中心に、それらの諸機能が身体活動に伴いどのように変動し、適応するのか解説する。					
到達目標	ヒトの生命活動の基本現象である「正常なからだの働き（機能）」と「生理学的なものの見方や考え方」をもとに、それらが運動によってどのように変化／適応していくかを理解する					
教科書	運動生理学の基礎と発展 3 訂版【フリースペース】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	60 点	40 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	解剖学、生理学、および生化学の基礎を理解していないと本科目の内容理解は困難である					
授業計画						講師名
第 1 回	ガイダンス、国家試験の過去問題例紹介、運動とは					富田
第 2 回	運動とコンディショニング					富田
第 3 回	運動とエネルギー供給機構					富田
第 4 回	運動と骨格筋系①					富田
第 5 回	運動と骨格筋系②					富田
第 6 回	運動と神経系					富田
第 7 回	運動と呼吸器系①					富田
第 8 回	運動と呼吸器系②					富田
第 9 回	運動と循環器系①					富田
第 10 回	運動と循環器系②					富田
第 11 回	運動と呼吸循環系					富田
第 12 回	環境と運動					富田
第 13 回	運動と内分泌系					富田
第 14 回	運動と免疫系					富田
第 15 回	まとめ、スタディーガイド					富田
備考						

科目名	運動療法学演習		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛					
授業概要	運動療法の定義と基礎原理を学ぶ					
到達目標	モビライゼーション、関節可動域練習、ストレッチ、ホームエクササイズの基本的な方法と技術の習得					
教科書	リハビリテーションを最大限に引き出すコツ 理学療法士・作業療法士のためのできる ADL					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点		点		点	100 点
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	運動療法の基礎				10/2	松井
第 2 回	モビライゼーション（肩・肘関節）				10/2	松井
第 3 回	モビライゼーション（手指・股関節）				10/10	松井
第 4 回	モビライゼーション（膝関節・足関節）				10/10	松井
第 5 回	ストレッチ（下肢）				10/11	松井
第 6 回	ストレッチ（体幹）				10/11	松井
第 7 回	ストレッチ（上肢）				10/24	松井
第 8 回	ホームエクササイズ発表説明				10/24	松井
第 9 回	ホームエクササイズ発表資料作成				11/7	松井
第 10 回	ホームエクササイズ発表資料作成				11/7	松井
第 11 回	ホームエクササイズ発表会				12/13	松井
第 12 回	ホームエクササイズ発表会				12/13	松井
第 13 回	先輩たちの技術を盗もう！				1/8	松井
第 14 回	先輩たちの技術を盗もう！				1/8	松井
第 15 週	筆記テスト					松井
備考	実技テストは行いません					

科目名	物理療法学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 坪内 敬典					
授業概要	教科書、配布資料を用いての講義と実習を行う。					
到達目標	物理療法の適応症状と、 温熱療法、電気刺激療法の生理学的効果、身体への影響、治療効果を理解する。					
教科書	シンプル理学療法シリーズ 物理療法学テキスト（改訂第2版）【南江堂】					
参考書	EBM 物理療法 原著第4版【医歯薬出版】					
成績評価方法	中間試験	定期試験			計	
	62 点	38 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習として、運動療法学総論、病理学、理学療法評価学Ⅱ、理学療法診断学Ⅱの該当範囲を復習しておくこと。復習としてはスライドで提示した内容の記憶、理解に努めること。					
授業計画						講師名
第1回	物理療法の定義 鎮痛メカニズム					坪内
第2回	温熱療法総論					坪内
第3回	ホットパック					坪内
第4回	パラフィン浴、極超短波療法、知短波療法					坪内
第5回	超音波療法とは 作用・効果					坪内
第6回	超音波療法の応用治療、実施手順					坪内
第7回	作用・効果、実施手順、適応と注意事項・禁忌					坪内
第8回	作用・効果、実施手順、適応と注意事項・禁忌					坪内
第9回	寒冷療法とは、作用・効果、					坪内
第10回	総論、基礎知識、赤外線療法					坪内
第11回	レーザー療法					坪内
第12回	紫外線療法					坪内
第13回	演習：温熱療法、寒冷療法					坪内
第14回	演習：光線療法					坪内
第15回	まとめ					坪内
備考						

科目名	物理療法学 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井剛					
授業概要	教科書、配布資料を用いての講義と実習を行う。					
到達目標	物理療法の適応症状と、水治療法、光線療法、電気刺激療法の生理学的効果、身体への影響、治療効果を理解する。					
教科書	理学療法テキスト 物理療法学【メジカルビュー社】					
参考書						
成績評価方法	中間試験	定期試験			計	
	点	100 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	予習として、教科書をよく読んでおくこと。復習としてはスライドで提示した内容の記憶、理解に努めること。					
授業計画						講師名
第 1 回	水治療法4/16					松井
第 2 回	水治療法4/30					松井
第 3 回	水治療法4/30					松井
第 4 回	光線療法5/14					松井
第 5 回	光線療法5/14					松井
第 6 回	電気刺激療法①5/28					松井
第 7 回	電気刺激療法①5/28					松井
第 8 回	電気刺激療法②6/10					松井
第 9 回	電気刺激療法②6/10					松井
第 10 回	電気刺激療法③6/17					松井
第 11 回	電気刺激療法③6/24					松井
第 12 回	筋電図バイオフィードバック療法7/1					松井
第 13 回	筋電図バイオフィードバック7/15					松井
第 14 回	まとめ					松井
第 15 回	まとめ					松井
備考						

科目名	理学療法技術論 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松田 徹					
授業概要	脊髄損傷の病態の把握とリスク管理、理学療法評価・残存高位別の理学療法（起居・移乗・ADL 動作）の実践に必要な基本知識・技術を講義・実技形式により習得する。また症例検討を通して、理学療法プロセス（評価項目立案・問題点抽出・目標設定・プログラム立案）を整理する。					
到達目標	脊髄損傷患者の評価・治療技術の基礎を身に付ける。 脳卒中の病態、診断、介入方法などを理解し、実践できるようになる。 臨床で行われている脳卒中患者への理学療法を理解し、実践できるようになる。 教科書や参考書の内容を理解でき、国家試験合格レベルの知識を身につける。					
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I・II【中山書店】 PT・OT・ST のための脳画像の見方と神経所見【医学書院】					
参考書	脊髄損傷理学療法マニュアル【文光堂】 動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション【医学書院】 病気がみえる vol.7 脳・神経【MEDIC MEDIA】 プロメテウス解剖学アトラス 頭部/神経解剖【医学書院】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点				100 点	
予習・復習のポイント	各回の内容に関連した国家試験の過去問を授業の最後、次回講義の最初に提供する。その問題を繰り返し解くことを予習・復習としてお勧めする					
授業計画						講師名
第 1 回	脊髄損傷の病態、主症状と対応①(運動麻痺・感覚障害)					松田
第 2 回	主症状と対応②(自律神経障害、膀胱直腸障害、呼吸障害、拘縮)					松田
第 3 回	合併症と対応①(異所性骨化、褥瘡、起立性低血圧、深部性動脈血栓症など)					松田
第 4 回	合併症と対応②、脊髄損傷の理学療法評価①					松田
第 5 回	脊髄損傷の理学療法評価②					松田
第 6 回	残存高位別の理学療法（四肢麻痺）①					松田
第 7 回	残存高位別の理学療法（四肢麻痺）②					松田
第 8 回	残存高位別の理学療法（四肢麻痺）③					松田
第 9 回	残存高位別の理学療法（対麻痺・不完全麻痺）①					松田
第 10 回	残存高位別の理学療法（対麻痺・不完全麻痺）②					松田
備考						

科目名	理学療法技術論 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学		コマ数	20 コマ	時間数	40 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 米本 竜馬					
授業概要	座学を中心に行う。					
到達目標	脳卒中の病態、診断、介入方法などを理解し、実践できるようになる。 臨床で行われている脳卒中患者への理学療法を理解し、実践できるようになる。 教科書や参考書の内容を理解でき、国家試験合格レベルの知識を身につける。					
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I・II【中山書店】 PT・OT・ST のための脳画像の見方と神経所見【医学書院】					
参考書	病気がみえる vol.7 脳・神経【MEDIC MEDIA】 プロメテウス解剖学アトラス 頭部/神経解剖【医学書院】					
成績評価方法					計	
	中間試験	50 点	期末試験	50 点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書を中心に行う。					
授業計画						講師名
第 1 回	中枢神経系理学療法の基礎知識					米本
第 2 回	運動と感覚の中枢機能と構造					米本
第 3 回	脳損傷の定義と病態					米本
第 4 回	脳の損傷とその回復					米本
第 5 回	脳血管障害における医学管理					米本
第 6 回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					米本
第 7 回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					米本
第 8 回	脳血管障害後片麻痺に対する評価 (1) -impairment					米本
第 9 回	脳血管障害後片麻痺に対する評価 (2) -activity limitation					米本
第 10 回	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング (1) -課題思考型トレーニングと運動学習の理論的背景					米本
第 11 回	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング (2) -歩行に向けて：坐位、立位を中心に					米本
第 12 回	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング (3) -歩行を中心に					米本
第 13 回	脳血管障害における合併症					米本
第 14 回	高次脳機能障害と理学療法 -pusher 減少と半側空間無視					米本
第 15 回	脳血管障害における理学療法の実際					米本
第 16 回	脳の構造と機能 (1) -大脳基底核					米本
第 17 回	脳の構造と機能 (2) -小脳					米本
第 18 回	脳の構造と機能 (3) -脳幹					米本
第 19 回	脳画像のみかたと神経所見 (基礎知識編)					米本
第 20 回	脳画像のみかたと神経所見 (症例編)					米本
備考						

科目名	理学療法技術論Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 樋口 美幸					
授業概要	医療の進歩をベースとした平均寿命の延伸により、「老年期疾患」と「がん」のリハビリテーション（理学療法）の必要性が年々増している。本講義では「老年期」、「がん」による身体機能の変化や病態について理解し、評価・理学療法介入の実践と関連するエビデンスについて、講義・実技形式により習得する。					
到達目標	1) 老年期の理学療法：認知症（軽度認知障害）・フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームなどを予防・改善するための基本知識と技術の習得を目指す。 2) がんの理学療法：各種がんの病態について理解する。内科系疾患へのリスク管理、外科系疾患では周術期の理学療法の実践について、講義・実技形式で学ぶ。					
教科書	特になし					
参考書	高齢者の機能障害に対する運動療法（文光堂）、高齢者理学療法学（医歯薬出版）、がん患者のリハビリテーション[リスク管理とゴール設定]（MEDICALVIEW） 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「運動療法学」（中山書店）					
成績評価方法	中間試験	期末試験			計	
	50 点	50 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	各回の内容に関連した国家試験の過去問を授業の最後、次回講義の最初に提供する。その問題を繰り返し解くことを予習・復習としてお勧めする。					
授業計画						講師名
第 1 回	がんのリハビリテーション（理学療法）総論；基本概念、効果とエビデンス					樋口
第 2 回	がんのリハビリテーションの対象と障害の種類①（がんの分類・特徴・病期分類）					樋口
第 3 回	がんのリハビリテーションの対象と障害の種類②（周術期における運動療法を中心とした理学療法〈肺がん・消化器がん〉）（1）					樋口
第 4 回	がんのリハビリテーションの対象と障害の種類②（周術期における運動療法を中心とした理学療法〈肺がん・消化器がん〉）（2）					樋口
第 5 回	がんのリハビリテーションの対象と障害の種類③（リンパ浮腫を有する患者の運動療法を含む理学療法）					樋口
第 6 回	がんのリハビリテーションの対象と障害の種類④（転移性骨腫瘍を有する患者の運動療法を中心とした理学療法）					樋口
第 7 回	維持的・緩和的な時期における関わり					樋口
第 8 回	中間試験					樋口
第 9 回	高齢者の理学療法総論・老化について①運動および関連機能 老化について②感覚・知覚・認知、心理・社会機能					樋口
第 10 回	高齢者に特徴的な姿勢・動作・歩行					樋口
第 11 回	転倒リスクの評価と予防の実践					樋口
第 12 回	フレイルの評価と介入の実践					樋口
第 13 回	サルコペニアの評価と介入の実践					樋口
第 14 回	認知症（軽度認知障害）の評価と介入の実践					樋口
第 15 回	まとめ					樋口
備考						

科目名	理学療法技術論Ⅲ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 城所 亮多					
授業概要	四肢、体幹の運動器障害に対する理学療法の理論と実際について学習する					
到達目標	各運動器疾患に対する基本的な理学療法の評価、治療を施行できる					
教科書	理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ 第2版【中山書店】 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法【メジカルビュー社】					
参考書	リハビリに直結する！運動器画像の見かた【羊土社】					
成績評価方法	定期試験	実技試験			計	
	70 点	30 点	点		100 点	
予習・復習のポイント	整形外科の病態の理解、基本的な理学療法評価法の習得が必須					
授業計画						講師名
第1回	運動器リハビリテーションとは					城所
第2回	整形外科領域の画像のみかた					城所
第3回	組織再生・修復 総論					城所
第4回	組織再生・修復、炎症、疼痛に対する評価					城所
第5回	骨折、脱臼 総論					城所
第6回	骨折、脱臼 評価と治療					城所
第7回	高齢者の4大骨折 総論					城所
第8回	高齢者の4大骨折 評価と治療					城所
第9回	変形性股関節症 総論					城所
第10回	変形性股関節症 評価と治療					城所
第11回	変形性膝関節症 総論					城所
第12回	変形性膝関節症 評価と治療					城所
第13回	膝靭帯・半月板損傷捻挫 総論					城所
第14回	膝靭帯・半月板損傷捻挫 評価と治療					城所
第15回	頸部・腰部疾患、脊椎手術 総論					城所
第16回	頸部・腰部疾患、脊椎手術 評価と治療					城所
第17回	肩関節周囲炎・肩の外傷 総論					城所
第18回	肩関節周囲炎・肩の外傷 評価と治療					城所
第19回	その他の骨折 上肢・下肢の骨折に対する理学療法					城所
第20回	その他の骨折 上肢・下肢の骨折に対する理学療法の実際					城所
第21回	関節リウマチ 総論					城所
第22回	関節リウマチ 評価と治療					城所
第23回	末梢神経損傷、総論 評価と治療					城所
第24回	捻挫と肉離れ 総論 評価と治療					城所
第25回	整形外科的テスト（上肢）					城所
第26回	整形外科的テスト（体幹）					城所
第27回	整形外科的テスト①（下肢）					城所
第28回	整形外科的テスト②（下肢）					城所
第29.30回	まとめ					城所

科目名	理学療法技術論Ⅳ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 三沢 峰茂					
授業概要	姿勢・運動障害を呈する小児疾患の特徴をまとめ、それぞれの運動療法の理解を深める。					
到達目標	障害児（脳性麻痺、二分脊椎、神経筋疾患等）の特徴や症候をまとめ、評価内容や運動療法について、動画を活用し、学生同士の実技演習をとうして理解を深め、考える力をつける。					
教科書	プリントを配布					
参考書	授業の中で適時紹介する					
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	100 点	点	点		100 点	
予習・復習のポイント	配布資料、ノートを見直し、文献等を確認する。不明な点があれば次回の講義に質問する。					
授業計画						講師名
第 1 回	小児疾患（障害児）の運動療法概論					三沢
第 2 回	障害児の評価					三沢
第 3 回	中枢神経系障害児の神経学的評価					三沢
第 4 回	運動療法の視点から見る運動発達					三沢
第 5 回	脳性麻痺概論、NICUにおけるリスク管理と理学療法					三沢
第 6 回	痙直型四肢麻痺の特徴と運動療法					三沢
第 7 回	痙直型両麻痺の特徴と運動療法					三沢
第 8 回	アテトーゼ型脳性麻痺の特徴					三沢
第 9 回	アテトーゼ型脳性麻痺児の運動療法					三沢
第 10 回	弛緩型脳性麻痺の特徴と運動療法					三沢
第 11 回	二分脊椎の特徴と運動療法					三沢
第 12 回	神経筋疾患の特徴と理学療法					三沢
第 13 回	脳性麻痺に対する運動療法（ボバース、ボイタらによる）					三沢
第 14 回	摂食嚥下機能とその障害、摂食嚥下リハビリテーション					三沢
第 15 回	まとめ					三沢
備考	成績評価について、その他の項目は授業中の発言や質問の状況を加点します。					

科目名	理学療法技術論Ⅴ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 田中 宇徳					
授業概要	神経筋疾患に関する病態理解とリハビリテーションの理解と実践					
到達目標	神経筋疾患を有する患者がイメージできる。 臨床場面において神経筋疾患の評価・治療が実施できるようになる。 国家試験において神経筋疾患の問題を解くことができる。					
教科書	PT・OT ビジュアルテキスト 神経障害理学療法学第2版					
参考書	プリントを配付					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	予習：教科書を読む。 復習：配付資料を基に教科書と照らし合わせて確認する。					
授業計画						講師名
第1回	オリエンテーション（授業の概要、中枢神経疾患・神経原性疾患・筋原性の違いの把握）					田中
第2回	パーキンソン病①：疾患概要・解剖の理解					田中
第3回	パーキンソン病②：リハビリテーション					田中
第4回	小脳疾患①：疾患概要・解剖の理解					田中
第5回	小脳疾患②：リハビリテーション					田中
第6回	脱髄疾患①：疾患概要・解剖の理解					田中
第7回	脱髄疾患②：リハビリテーション					田中
第8回	筋萎縮性側索硬化症①：疾患概要・解剖の理解					田中
第9回	筋萎縮性側索硬化症②：リハビリテーション					田中
第10回	神経筋結合部疾患：疾患概要・解剖の理解・リハビリテーション					田中
第11回	筋疾患：疾患概要・解剖の理解・リハビリテーション					田中
第12回	末梢神経疾患：疾患概要・解剖の理解・リハビリテーション					田中
第13回	問題作成：学生全員で問題を作成し、全員で解答する					田中
第14回	問題作成：学生全員で問題を作成し、全員で解答する					田中
第15回	まとめ					田中
備考	出席状況・グループワーク・小テスト・筆記試験などで総合的に判断する。					

科目名	理学療法技術論Ⅵ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 武市 尚也					
授業概要	心臓循環機能、運動負荷にともなう生理的な反応を理解する。					
到達目標	急性期、回復期における心臓リハビリテーションの概要を理解する。					
教科書	疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル【ヒューマン・プレス】					
参考書	病気がみえる Vol.2 循環器（メディックメディア） 理学療法リスク管理マニュアル第3版（三輪書店）					
成績評価方法	定期試験	小テスト	その他		計	
	60 点	30 点	10 点		100 点	
予習・復習のポイント	解剖学・生理学を（特に循環器領域における）復習しておくこと					
授業計画						課題 提出日
第 1 回	循環器系の解剖生理①					武市
第 2 回	循環器系の解剖生理②					武市
第 3 回	循環器系の解剖生理③					武市
第 4 回	心電図の読み方①					武市
第 5 回	心電図の読み方②					武市
第 6 回	心電図の読み方③					武市
第 7 回	虚血性心疾患の病態，治療①					武市
第 8 回	虚血性心疾患の病態，治療②					武市
第 9 回	心不全の病態，治療①					武市
第 10 回	心不全の病態，治療②					武市
第 11 回	心臓リハビリテーション①					武市
第 12 回	心臓リハビリテーション②					武市
第 13 回	心臓リハビリテーション③					武市
第 14 回	心臓リハビリテーション④					武市
第 15 回	心臓リハビリテーション⑤					武市
備考						

科目名	理学療法技術論Ⅶ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 小林 好信 西澤 肇					
授業概要	切断患者の病態，治療の概要を知ることに加えて，切断患者に対する理学療法を学ぶ					
到達目標	切断患者に対する理学療法を実施できる。切断術前後の管理を安全に行える。 義足の処方および義肢装着練習を実施できる。 基本的な糖尿病に対する理学療法を実施できる。糖尿病合併症に関するリスク管理ができる。					
教科書	疾患別リハビリテーションリスク管理マニュアル第2版 PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版					
参考書	糖尿病療養指導ガイドブック【メディカルレビュー社】 病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌【メディックメディア】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第1回	生活習慣病 糖尿病 病態，検査，診断，治療					西澤
第2回	生活習慣病 糖尿病 病態，検査，診断，治療					西澤
第3回	糖尿病 急性合併症・慢性合併症					西澤
第4回	糖尿病 急性合併症・慢性合併症					西澤
第5回	糖尿病 治療（運動療法・薬物療法・食事療法）					西澤
第6回	糖尿病 治療（運動療法・薬物療法・食事療法）					西澤
第7回	慢性腎臓病 保存期・透析期 腎臓リハビリテーション					西澤
第8回	切断 下肢切断のリハビリテーションの基礎知識					小林
第9回	切断 手術手技，術前評価，術前の理学療法					小林
第10回	切断 術後の断端管理，術後の評価，術後の理学療法					小林
第11回	切断 義足処方，仮義足，本義足					小林
第12回	切断 義足処方，仮義足，本義足					小林
第13回	切断 ダイナミック・アライメント					小林
第14回	切断 歩行練習，日常生活動作練習					小林
第15回	まとめ					
備考						

科目名	理学療法技術論Ⅷ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 衣田 翔、山口 利貴枝、監物 直子					
授業概要	呼吸理学療法における評価，治療について理解する					
到達目標	呼吸器疾患に対する理学療法について説明できる					
教科書	理学療法テキスト内部障害理学療法学 呼吸【中山書店】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	講義中に使用する配布資料と教科書関連ページにて予習・復習をする					
授業計画						講師名
第 1 回	呼吸理学療法総論					衣田
第 2 回	呼吸器系の解剖と生理					衣田
第 3 回	呼吸不全と呼吸器疾患 I					衣田
第 4 回	呼吸不全と呼吸器疾患 II					衣田
第 5 回	呼吸理学療法のための評価：フィジカルアセスメント					衣田
第 6 回	呼吸理学療法のための評価：運動機能評価、胸部画像、QOL 等					衣田
第 7 回	呼吸理学療法における運動療法					衣田
第 8 回	酸素療法					衣田
第 9 回	慢性呼吸不全に対する呼吸理学療法 I					衣田
第 10 回	慢性呼吸不全に対する呼吸理学療法 II					衣田
第 11 回	急性呼吸不全に対する呼吸理学療法 I					衣田
第 12 回	急性呼吸不全に対する呼吸理学療法 II					衣田
第 13 回	人工呼吸療法と理学療法の実際					衣田
第 14 回	喀痰吸引(演習)					山口 監物
第 15 回	まとめ					衣田
備考						

科目名	義肢学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 齊藤 琴子					
授業概要	本講義では、四肢切断者への理学療法に必要な基礎知識と応用力を体系的に学ぶ。はじめに、切断の原因や切断手技について理解を深め、急性期からの理学療法の進め方を学習する。その後、義肢装着訓練に関する知識として、義手・義足の種類、ソケットの構造と特徴、義足の適応判定の考え方を習得する。また、義肢のバイオメカニクスに関する理解を深め、特に下肢義足の構成要素・機能・アライメントについて学ぶ。さらに、下腿義足および大腿義足使用時における異常歩行の原因とその運動学的メカニズムについても解説する。国家試験対策として、関連する過去問題を紹介し、臨床と試験の双方で必要な知識の定着を図る。					
到達目標	代表的な義肢についてその構成要素と機能を理解する。また、アライメントおよび異常歩行について、バイオメカニクスの思考で考えることができるようになる。					
教科書	書籍名【出版社】PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学【羊土社】第2版第1刷					
参考書	書籍名【出版社】					
成績評価方法					計	
	中間 45 点	期末 45 点	小テスト 10 点	100 点		
予習・復習のポイント	事前学習：教科書、資料を一度は読んでおき、わからないことを確認しまとめておく。解剖学、運動学、切断原因となる疾患との関連も深いので、復習しておく。 事後学習：①配布資料をまとめておく。②わからなかったこと、単語の意味を再確認する。授業内容を復習し、国家試験問題も解いてみよう。 * 授業毎に、前回の授業内容を確認する小テストを実施します。					
授業計画						講師名
第1回	総論、切断原因、切断術、義肢分類、断端管理。					齊藤
第2回	下肢切断の理学療法評価					齊藤
第3回	大腿義足ソケットの種類と適合評価					齊藤
第4回	膝義足ソケットの種類と適合評価、大腿義足のアライメント					齊藤
第5回	膝義足のアライメント					齊藤
第6回	下腿義足ソケットの種類と適合評価					齊藤
第7回	まとめ・中間テスト 上記1回～6回までの範囲、					齊藤
第8回	サイム義足ソケットの種類と適合評価、アライメント					齊藤
第9回	下腿義足・股義足のアライメント					齊藤
第10回	足部分義足の種類と適合評価、継手の種類とその設定調整方法					齊藤
第11回	下肢切断者に対する理学療法士療法プログラム1					齊藤
第12回	下肢切断者に対する理学療法士療法プログラム2					齊藤
第13回	上肢切断について					齊藤
第14回	国試問題 義肢に関する国家試験過去問題の紹介と解説					齊藤
第15回	まとめ 上記8回～14回までの範囲のまとめ					齊藤
備考						

科目名	装具学		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 齊藤琴子					
授業概要	本講義では、下肢・体幹・上肢・靴型装具の種類と機能について基礎から学習する。各装具の目的や構造に加え、適応となる疾患や障害の病態、身体症状との関連性について理解を深める。臨床的視点から装具の使用目的、適応疾患、ならびに理学療法における装具療法の役割を学ぶ。さらに、装具の適合判定に必要な評価観点や、装具療法と運動療法との関係についても講義内で解説し、臨床応用に向けた知識を体系的に修得する。					
到達目標	装具の種類と機能と構造について説明できる。装具の種類、適合判定、アライメント調整ができる。装具を活用した理学療法の実際を理解し、実施できる。					
教科書	PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版第1刷					
参考書						
成績評価方法	小テスト	中間試験	定期試験	計		
	10 点	45 点	45 点	100 点		
予習・復習のポイント	授業後に配布プリントと教科書、参考書を用いて復習すること。					
授業計画						講師名
第1週	装具学総論					齊藤
第2週	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト					齊藤
第3週	足継手の制御機構					齊藤
第4週	疾患別の装具療法①脳血管障害片麻痺の装具					齊藤
第5週	疾患別の装具療法②脊髄損傷の装具					齊藤
第6週	疾患別の装具療法③整形外科的装具					齊藤
第7週	まとめ 1～6回までの範囲					齊藤
第8週	疾患別の装具療法④頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具					齊藤
第9週	疾患別の装具療法⑤末梢神経障害の装具					齊藤
第10週	疾患別の装具療法⑥脊柱側弯症の装具					齊藤
第11週	疾患別の装具療法⑦小児疾患の装具					齊藤
第12週	疾患別の装具療法⑧関節リウマチの装具					齊藤
第13週	靴型装具					齊藤
第14週	義肢装具の給付制度・短下肢装具装着における歩行分析					齊藤
第15週	まとめ 7回～14回までの範囲					齊藤
備考						

科目名	卒業研究 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	5 単位
	理学療法治療学		コマ数	15 コマ	時間数	150 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井剛 山崎尚樹 坪内敬典 岡崎浩二 米本竜馬 櫻井亮太 佐々木千裕 五十嵐祐介					
授業概要	理学療法研究の基礎, 統計方法を学び, 研究の重要性・必要性の理解を深める.					
到達目標	理学療法研究の基礎, 統計方法をもとに, 研究デザインを構築できる					
教科書	最新理学療法学講座 理学療法研究法 【医歯薬出版株式会社】 クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士 共通問題 【メディックメディア】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	その他	小テスト	計		
	25 点	50 点	25 点	100 点		
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回	研究とは何か?なぜ研究が必要なのだろう					松井
第 2 回	研究デザインの基礎知識					松井
第 3 回	統計学:平均値と標準偏差、正規分布、母集団と標本、統計における検定の意味					松井
第 4 回	統計学:相関分析と回帰分析、多変量解析(重回帰分析)					松井
第 5 回	統計学:t検定、分散分析					松井
第 6 回	統計学:感度、特異度、ROC 曲線、尤度比、国試に出題された内容					松井
第 7 回	文献を探す方法					松井
第 8 回	研究計画の立て方とバイアスの考慮					松井
第 9 回	倫理申請の要点、研究不正行為と引用・転載の注意点					松井
第 10 回	学会発表に向けて、論文の執筆					松井
第 11 回	発表会準備					松井
第 12 回	発表会準備					松井
第 13 回	発表会					松井
第 14 回	発表会					松井
第 15 回 ～ 第 74 回	後期:国家試験対策・ゼミ活動					各担当 教員
第 75 回	まとめ					松井
備考						

科目名	卒業研究Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	5 単位
	理学療法治療学		コマ数		時間数	150 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	山崎 尚樹 坪内 敬典 岡崎 浩二 ◎ 米本 竜馬 櫻井 亮太 松井 剛 佐々木 千裕 五十嵐 祐介					
授業概要	理学療法研究の基礎、統計方法を学び、研究の重要性、必要性の理解を深める。 多くの研究論文を抄読する。 実際に研究を進めていき、研究論文作成、研究発表の方法を学ぶ。					
到達目標	理学療法研究の基礎、統計方法をもとに、研究デザインを構築。 研究論文の抄読 卒業研究論文作成、卒業研究発表					
教科書	指定書籍なし					
参考書	書籍名【出版社】					
成績評価方法	定期試験	その他			計	
	点	100 点	点		100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第 1 回 ～ 第 60 回	各ゼミ活動（文献検索、実験等）					松井
第 61 回 ～ 第 70 回	卒業論文作成					松井
第 71 回 ～ 第 74 回	卒業研究発表					松井
第 75 回	まとめ					松井
備考						

科目名	日常生活活動学 I	対象学科		理学療法学科	
		開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野	講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学	コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 岡崎 浩二				
授業概要	日常生活活動（動作）は通常、ADL と呼ばれ、食事、整容、更衣、排泄、入浴、移動、コミュニケーションを内容とし、理学療法では、重要で中心的な概念である。ADL の概念、ADL 評価のとらえ方、理学療法プログラムにおける練習・指導の考え方と具体的方法について学ぶ。				
到達目標	理学療法プログラムにおける練習・指導の考え方と具体的方法の習得 国家試験を解答するための知識の習得				
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 第3版【南江堂】				
参考書	姿勢と動作 ADL その基礎から応用 第3版【メヂカルフレンド社】 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM [基礎編]【金原出版株式会社】				
成績評価方法	定期試験		計		
	100 点		100 点		
予習・復習のポイント	授業は教科書と配布資料を用いて進行する。1 回の授業で配布する資料が多いため、下記の授業計画を基に教科書の記載内容に関しては事前の予習を薦める。				
授業計画					講師名
第 1 回	・オリエンテーション ・ADL の概念、ADL と ICF				岡崎
第 2 回	・ADL と QOL、理学療法にとっての ADL の位置づけ				岡崎
第 3 回	・歴史と評価の目的、ADL 評価の尺度とポイント				岡崎
第 4 回	・時期別 ADL 評価の意義、様々な ADL 評価				岡崎
第 5 回	・バーセルインデックスー①				岡崎
第 6 回	・バーセルインデックスー②				岡崎
第 7 回	・FIMー①				岡崎
第 8 回	・FIMー②				岡崎
第 9 回	・FIMー③				岡崎
第 10 回	・FIMー④				岡崎
第 11 回	・補装具とは、移動補助具の種類と適応				岡崎
第 12 回	・杖と松葉杖、その他の歩行補助具				岡崎
第 13 回	・起居移動動作の役割、基本動作				岡崎
第 14 回	・寝返り				岡崎
第 15 回	・起き上がり				岡崎

第 16 回	・ 座位	岡崎
第 17 回	・ 立ち上がり	岡崎
第 18 回	・ 立位	岡崎
第 19 回	・ 歩行指導一①	岡崎
第 20 回	・ 歩行指導一②	岡崎
第 21 回	・ 床上移動動作①	岡崎
第 22 回	・ 床上移動動作②	岡崎
第 23 回	・ 車椅子	岡崎
第 24 回	・ 車椅子	岡崎
第 25 回	・ 食事動作	岡崎
第 26 回	・ トイレ動作	岡崎
第 27 回	・ 入浴動作	岡崎
第 28 回	・ 整容動作 更衣動作	岡崎
第 29 回	・ コミュニケーション	岡崎
第 30 回	・ 移乗動作、介助法	岡崎
備考		

科目名	日常生活活動学Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	2 単位
	理学療法治療学		コマ数	30 コマ	時間数	60 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 岡崎 浩二					
授業概要	ADL を系統的にまとめた能力障害である日常生活動作について疾患別の評価方法や介入方法の理解や知識を深める。					
到達目標	理学療法プログラムにおける疾患別の練習・指導の考え方と具体的方法の習得 国家試験を解答するための知識の習得					
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版【南江堂】					
参考書	姿勢と動作 ADL その基礎から応用 第3版【メヂカルフレンド社】					
成績評価方法	定期試験		計			
	100 点		100 点			
予習・復習のポイント	授業は教科書と配布資料を用いて進行する。1 回の授業で配布する資料が多いため、下記の授業計画を基に教科書の記載内容に関しては事前の予習を薦める。					
授業計画						講師名
第 1 回	・オリエンテーション					岡崎
第 2 回	・総論 ADL 練習とは					岡崎
第 3 回	・脳血管障害 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の					岡崎
第 4 回	・脳血管障害 具体的練習方法 寝返り（実技）					岡崎
第 5 回	・脳血管障害 具体的練習方法 起き上がり（実技）					岡崎
第 6 回	・脳血管障害 具体的練習方法 座位、立ち上がり、立位（実技）					岡崎
第 7 回	・脳血管障害 具体的練習方法 立位、床からの立ち上がり（実技）					岡崎
第 8 回	・脳血管障害 具体的練習方法 移乗動作（実技）					岡崎
第 9 回	・脳血管障害 具体的練習方法 歩行、階段昇降（実技）					岡崎
第 10 回	・脳血管疾患 セルフケア					岡崎
第 11 回	・脊髄損傷 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の概要					岡崎
第 12 回	・脊髄損傷 具体的練習方法 寝返り、起き上がり					岡崎
第 13 回	・脊髄損傷 具体的練習方法 車椅子からの移乗動作					岡崎
第 14 回	・脊髄損傷 セルフケア					岡崎

第 15 回	・ 大腿骨頸部骨折 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の概要	岡崎
第 16 回	・ 大腿骨頸部骨折 具体的練習方法 ADL 練習（実技）	岡崎
第 17 回	・ 関節リウマチ 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の概要、自助具と装具	岡崎
第 18 回	・ 関節リウマチ セルフケア	岡崎
第 19 回	・ 大腿切断 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の概要	岡崎
第 20 回	・ 大腿切断 具体的練習方法、ADL 練習 ・ 高齢者 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の概要	岡崎
第 21 回	・ 変形性膝関節症 疾患の概要、機能構造障害の概要、活動制限の概要	岡崎
第 22 回	・ 脊椎圧迫骨折 機能構造障害の概要、活動制限の概要、ADL 練習（実技）	岡崎
第 23 回	・ 神経筋疾患・難病 機能構造障害の概要、活動制限の概要 ・ Duchenne 型筋ジストロフィー 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習	岡崎
第 24 回	・ 脊髄小脳変性症 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習	岡崎
第 25 回	・ パーキンソン病 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習	岡崎
第 26 回	・ 筋萎縮性側索硬化症 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習	岡崎
第 27 回	・ 多発性硬化症 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習	岡崎
第 28 回	・ 腰痛症 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習 ・ 呼吸器疾患 疾患の概要、機能構造障害・活動制限の概要、ADL 練習	岡崎
第 29 回	まとめ	岡崎
第 30 回	まとめ	岡崎
備考		

科目名	臨床参加研修 I		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	1 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	45 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛 佐々木千裕 五十嵐祐介					
授業概要	介護老人保健施設において、通所リハビリテーションに関する実習を実施する。見学を中心とした実習となるが、1~2 学年前期に学内で学んだ知識や技術を基に臨床実習指導者の指導・監督の下で、実際の利用者様に理学療法評価の実技を経験させていただく。					
到達目標	通所リハビリテーションに関する実習を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や知識について理解する。 理学療法評価の実践。臨床実習指導者の指導、監督の下で、理学療法の一部を実施できる。					
教科書						
参考書						
成績評価方法					計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
1	研修前オリエンテーション 研修の心得 研修の手引きの説明 必要書類					松井
2	ふれあいグループ内病院、介護老人保健施設にて実習					各施設 臨床教育者
3	研修後オリエンテーション 提出物並びに必要書類の回収					佐々木 五十嵐
備考	成績評価は、病院、施設での研修状況及び研修前後の課題（提出物）の実施状況を総合的に判断して行う。					

科目名	臨床参加研修Ⅱ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	5 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	225 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛 佐々木千裕 五十嵐祐介					
授業概要	病院において臨床参加実習を実施する。 1～3 学年前期に学内で学んだ知識や技術を基に実際の患者様に評価、測定、治療、プログラムの作成、経過記録の作成を臨床教育者の指導。監督の下で、実施させていただく。					
到達目標	理学療法評価、測定、治療、プログラムの作成、経過記録の作成の実践。臨床実習指導者の指導、監督の下で、理学療法の一部を実施する。					
教科書						
参考書						
成績評価方法					計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
1	研修前オリエンテーション 研修の心得 研修の手引きの説明 必要書類作成					松井
2	ふれあいグループ内病院施設にて実習					各施設 臨床教育 者
3	研修後オリエンテーション 提出物並びに必要書類の回収					佐々木 五十嵐
4	研修後演習① 架空症例を用いた症例検討（グループワーク）					学科教員
備考	成績評価は、病院での研修状況及び研修前後の課題（提出物）の実施状況を総合的に判断して行う。 ※臨床実習前の評価は、症候障害学Ⅱの実技試験をもって実施することとする。					

科目名	臨床参加研修Ⅲ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	7 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	315 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛 佐々木千裕 五十嵐祐介					
授業概要	病院において臨床参加実習を実施する。 学内で学んだ知識や技術に加えて臨床参加研修Ⅱでの学習を基に実際の患者様に評価、測定、治療、プログラムの作成、経過記録の作成を臨床教育者の指導。監督の下で、実施させていただきます。					
到達目標	理学療法評価、測定、治療、プログラムの作成、経過記録の作成の実践。臨床実習指導者の指導、監督の下で、理学療法の一部を実施できる。					
教科書	書籍名【出版社】					
参考書	書籍名【出版社】					
成績評価方法					計	
	100 点		点		点	100 点
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
1	研修前オリエンテーション 研修の心得 研修の手引きの説明 必要書類					松井
2	ふれあいグループ内病院施設にて実習					各施設 臨床教育 者
3	研修後オリエンテーション 提出物並びに必要書類の回収					佐々木 五十嵐
4	研修後演習② 架空症例を用いた症例検討（レジメによる症例発表、レポート作成）					学科教員
備考	成績評価は、病院での研修状況及び研修前後の課題（提出物）の実施状況を総合的に判断して行う。					

科目名	臨床参加研修Ⅳ		対象学科		理学療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	7 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	315 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 松井 剛 佐々木千裕 五十嵐祐介					
授業概要	病院において臨床参加実習を実施する。 学内で学んだ知識や技術に加えて臨床参加研修Ⅱ・Ⅲでの学習を基に実際の患者様に評価、測定、治療、プログラムの作成、経過記録の作成を臨床教育者の指導。監督の下で、実施させていただく。					
到達目標	理学療法評価、測定、治療、プログラムの作成、経過記録の作成の実践。臨床実習指導者の指導、監督の下で、理学療法の一部を実施できる。					
教科書						
参考書						
成績評価方法					計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
1	研修前オリエンテーション 研修の心得 研修の手引きの説明 必要書類					松井
2	ふれあいグループ内病院施設にて実習					各施設 臨床教育者
3	研修後オリエンテーション 提出物並びに必要書類の回収					佐々木 五十嵐
4	研修後演習③ 臨床実習後の評価として、OSCEを実施する。					学科教員
備考	成績評価は、病院での研修状況及び研修前後の課題（提出物）の実施状況を総合的に判断して行う。 ※研修後演習③において臨床実習後の評価を実施することとする。					

